

人と人の絆と地域の再生  
共に考え、共に学び、共に担う社会へ

2016 年度  
「デジタル公民館まっさき」  
活動報告書

---

デジタル公民館まっさき運営協議会

霞が関ナレッジスクエア (KK<sup>2</sup>)

2017年3月29日

## 目次

第1章	序章 .....	4
1.	活動の経緯 .....	4
第2章	平成28年度(2016年度)の事業 .....	7
1.	H28年度活動の日程・予算計画 .....	7
2.	H28年度活動の目標 .....	9
3.	H28年度活動の実施概要 .....	11
第3章	2016年度活動の成果と課題 .....	26
1.	実施した活動の参加者数・参加回数から見た成果と課題 .....	26
2.	「PC・ネットよろず相談」の成果と課題 .....	28
3.	シニアの出番づくりの成果と課題 .....	36
4.	まっさきに学ぶ！気仙に学ぶ！成果と課題 .....	39
5.	熊野神社式年大祭の成果と課題 .....	43
6.	デジタル公民館の公式サイトやFacebookの運営 .....	46
7.	6年間の参加者数の推移 .....	48
第4章	「デジタル公民館まっさき」活動のこれから .....	51

1.	現地参加者グループの意向と公民館の取りまとめ .....	51
2.	要請に応える KK <sup>2</sup> の事業計画と現地の年間計画 .....	57
3.	住民を主体とする活動のプラットフォームのイメージ .....	59
4.	ふるさとセンターのネットワーク構成 .....	60
5.	PC・ネットよろず相談グループの自主活動に向けて .....	61
6.	パソコン教室、PC・ネットよろず相談のカルテ .....	62
資料1	未崎町参加者・活動スタッフから寄せられたコメント(敬称略) .....	65
資料2	2016「デジタル公民館まっさき」収支報告 .....	72

## 第1章 序章

### 1. 活動の経緯

一般財団法人高度映像情報センター（略称：AVCC）・霞が関ナレッジスクエア（略称：KK<sup>2</sup>）では、「デジタル公民館まっさき」活動に先立って、2011年度（H23年度）の4月より「復興支援 IT ボランティア」活動に事前研修会や事後報告会に協力する形で参画しました。これは、NPO 法人 NPO 事業サポートセンターが主催し、IT 企業が協力した活動でした。同年9月以降は、ボランティア活動に伴走しながら、H23年度文部科学省「ICTの活用による生涯学習支援事業」の委託を受け、被災者が暮らす仮設住宅集会所を“公民館”に見立て「仮設住宅コミュニティを支える情報ボランティア育成プラットフォームの整備」に取り組みました。

この事業は、仮設住宅集会所をKK<sup>2</sup>や大学とネット（衛星通信、ビデオ会議、インターネット）で繋ぎ、文化や学び、相談アドバイス等の提供を通じて被災地の健康や暮らしのケア、コミュニティの再生を支援すること。また、被災地の復興活動に参加するボランティア人材（学生・社会人）の育成に資する学習プログラムを開発すること等を目的に実施しました。

「デジタル公民館まっさき活動」という名称は、復興支援 IT ボランティアの2012年9月活動から使用することになりました。同年4月よりKK<sup>2</sup>では「人と人の絆と地域の再生」事業をスタートしました。その一環として、末崎地区公民館にADSL回線や衛星受信システム（パラボラアンテナ・STBサーバー）を設置し、自主事業「故郷創世学習コンソーシアム」を立ち上げ、末崎地区公民館を拠点に行う復興支援 IT ボランティア活動を協働しました。

そんな中、文部科学省から2012年度（H24年度）「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の公募がありました。公募内容を見ると事業の実施主体が民間団体やNPO等であっても、地方自治体の教育委員会が関わった実行委員会形式・任意団体による事業申請なら応募条件をクリアできるということでした。さっそく末崎地区公民館とAVCCが協力して、大船渡市教育委員会と交渉し、教育委員会の了解を得て大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会をつくり、事業申請しました。その結果、8月15日付で採択が決定しました。以降、末崎地区公民館を拠点に、住民のICT活用をサポートする復興支援 IT ボランティア活動をベースに、文化・学習プログラムを提供する、被災地の地域コミュニティ再生支援事業に取り組むことになりました。

末崎地区公民館（ふるさとセンター）でのボランティア活動は、KK<sup>2</sup>のスタッフが2011年暮れに公民館を訪問したことがきっかけで始まりました。この地

区には当時約 1,500 世帯 4,500 人の方がお住いで、3.11 東日本大震災の津波により約 650 世帯が流失するという大惨事に見舞われました。地区公民館(大船渡市には 12 地区公民館がある)は末崎町の住民や地域組織が寄り合う公共施設です。被災直後から災害対策地区本部、避難所、救援物資保管所、医療・保健所となり、復興に向けた地域の中核施設の役割を担いました。

しかし大船渡市の地区公民館は、公共施設ではあっても社会教育法に依拠した社会教育施設からは外れている関係か、公民館には電話/FAX 切り替えのアナログ回線一本しかなく、常勤職員や専門職員はいませんでした。市町村合併で大船渡市となったこの末崎地区に行政の出先機関はなく、県や市役所のさまざまな情報が市のホームページで公開されているのにも関わらず、大容量高速光回線(下り・上りとも 100Mbps)はおろか ADSL 回線(下り 50Mbps、上り 12.5Mbps)も設置されていませんでした。復興を担う地域の拠点として公民館でインターネットにアクセスできなくて復興の支障にはならないのかと思いました。大船渡市内から離れたこの地域は被災前より高速通信網の整備は遅れており、インターネットを活用できる住民も限られていました。

そもそも社会教育施設としての公民館は、住民の学習ニーズや地域の実情に応じた多様な学習機会を提供する、社会の要請に的確に対応した取組や、子どもや若者、働き盛りの世代も含めて、地域住民全体が気軽に集える、人間力の向上などを中心としたコミュニティー(地域社会)のための総合的なサービス拠点、とされています。しかし、末崎地区公民館はこうした位置づけにはないため「ひと・もの・こと」の予算には厳しいものがありました。

こうした状況に鑑み KK<sup>2</sup> では、2012 年度、自前の予算で公民館に

- ・高速通信回線(ADSL)を敷設
- ・Wi-Fi 環境を構築
- ・リースアップした PC10 台に OS/アプリを整備
- ・WEB サーバ・メールサーバの提供
- ・住民が自由に使えるパソコンの設置
- ・衛星通信受信装置(パラボラアンテナ/コンテンツサーバー)

などからなるパソコン・インターネット利用環境を整備し、月一回ボランティアのスタッフが訪問する「PC・ネットよろず相談」、霞が関ナレッジスクエアで行われる寄席やコンサートを中継する「故郷創世学習」をスタートしました。

幸いにこの地区では、古くから住民同士の結びつきも強く、外部の人間の受け入れにも前向きで、日頃から福祉のまちづくりを心がけてきた公民館長を中

心に、よそ者を受け入れる、ボランティア活動に協力するというコミュニティが培われていました。

以来、定期的に公民館を訪問し「PC・ネットよろず相談」、相互の学び合い活動を繰り返し、人づくり地域づくりによる被災地の地域コミュニティ再生を後押ししてきました。

- ・2011年9月～2012年3月 委託事業 ITCを活用した生涯学習支援事業
- ・2012年4月～8月 自主事業 故郷創世学習コンソーシアム
- ・2012年9月～3月 委託事業 デジタル公民館まっさき
- ・2013年4月～2014年3月 自主事業 デジタル公民館まっさき
- ・2014年4月～2015年3月 委託事業 デジタル公民館まっさき
- ・2015年4月～2016年3月 委託事業 デジタル公民館まっさき
- ・2016年4月～2017年3月 自主事業 デジタル公民館まっさき

末崎地区公民館に整備したインターネット環境、ネットワーク設備の構成は次の図を参照ください。1階の職員室にNTTのONU(光回線終端装置)、ルーターを設置して1階廊下と2階会議室の無線LAN AP装置に接続。館内のWi-Fi環境を整備しています。1階、2階とも複数のパソコンからIDパスワードを登録してインターネットに接続できます。

## 第2章 平成28年度(2016年度)の事業

国は2016年3月をもって集中復興期間終了を宣言しました。末崎地区公民館には非常時に地区防災本部員が使用するデジタル防災無線システムが導入されました。しかし、職員が日常業務で使用できる回線は、未だにFAX切り替えアナログ回線一本しかないままです。デジタル公民館活動として整備したICT環境を撤収すると、末崎町内唯一の公共的ICT環境はなくなり、以前の状態に戻ってしまいます。

また、小中井仮設住宅談話室に提供していたインターネット環境についても、入居者、自治会の利用ニーズを確認したところ、住民退去が終わる5月いっぱいまでは継続的に必要ということでした。

そこで、KK<sup>2</sup>では、2016年度(4月1日～翌年3月31日)、自前の予算でICT環境を引き続き提供し、都会から末崎地区公民館に出向く社会人スタッフには往復交通費などの必要経費を自己負担していただき(学生はKK<sup>2</sup>負担)、年間4回、定期的に「デジタル公民館まっさき」活動を継続することにしました。

### 1. H28年度活動の日程・予算計画

年間活動計画(スケジュールとプログラム概要)は以下の通りです。

表1. 年間活動計画(スケジュールとプログラム概要)

スケジュール	プログラム概要
第1回 5月29日～30日	「PC・ネットよろず相談」 「まっさきに学ぶ！」
第2回 7月30日～31日	「PC・ネットよろず相談」 「まっさきに学ぶ！」
第3回 10月15日～16日	「PC・ネットよろず相談」 *中森 熊野神社式年大祭への参加・連携・協力
第4回 5月29日～30日	「PC・ネットよろず相談」 *三門松づくりへの参加・連携・協力
特別活動	8月 夏休み物づくり教室への協力 11月 末崎町民文化祭への参加

以下は、年度当初に立てた 28 年度活動の収支計画です。

表 2. 28 年度活動 収支計画

収入・支出	内容	金額 (円)
収入の部	・自己財源	1,200,000
	・寄付金・繰り延べ金（霞が関寄席出演者等より）	450,081
	合計	1,650,081
支出の部	インターネット環境維持費 （1カ所 12カ月分+1カ所 2カ月分）	290,136
	交通費	229,840
	レンタカー費：	166,000
	宿泊費：	208,000
	プログラム費	120,000
	弁当代：	90,000
	学生・事務局旅費：	250,000
	映像コンテンツ制作費：	314,825
	通信運搬費：	73,280
	印刷・事務用品・材料等：	158,000
	合計	1,650,081

（\*4月上旬、KK<sup>2</sup>サイトで公開）



## 2. H28 年度活動の目標

H28 年度の自前の活動にあたり、地域の状況変化も鑑み、次年度以降は、地域住民と公民館による自律的な活動に移行するにはどうしたらよいか。KK<sup>2</sup>・活動スタッフなど、よそ者主導から地域主導にするには何が足りないかを意識して活動プログラムを検討しました。

各プログラムの課題を以下のように考えました。

### (1) 「PC・ネットよろず相談」事業

KK<sup>2</sup> 主導から参加者主導に移行できるようにするには。

- ① 現地在住、在勤者の協力者を確保する
- ② 参加者の中で相談役に回る人を育てる
- ③ 参加者によるグループづくりを進める

### (2) 「まっさきに学ぶ！」事業

参加者として聞いていることが多い場から、活発に学び合う場に。

- ① 新しい参加者、協力者を掘り起こすようなプログラムの検討
- ② 1対Nの教室スタイルだけでなく、グループワーク、ワークショップ、対話形式の学習スタイルの導入
- ③ 地域住民の強みを引き出したり、自分たちの強みに気づいたりする場、町内の地区を超えてオールまっさきを共有するような場、活動自身について考える場づくり

### (3) 「熊野神社式年大祭 参加・連携・協力

4年ごとに行われる郷土の大祭を体験し、記録し、伝える。


- ① 都会の活動スタッフ（居住地域・故郷・信仰などがバラバラ）がまっさきの住民総出の祭り、郷土芸能を知る、体験する
- ② 祭りの様子を写真や動画でフェイスブックに上げるなど「PC・ネットよろず相談」参加者と交流し、一緒に楽しむ
- ③ 熊野神社式年大祭の神事や奉納舞など行事一式を映像収録し、ネットで公開するとともに地域に寄贈する

### (4) 「グループの活動への参加・連携・協力」

地域主体の活動によそ者活動スタッフが協力するスキームの推進


- ① 前年に続き夏休み物づくり教室の協力（まっさき竹とんぼグループ）

- ② 同、ミニ門松づくりへの協力（まっさき竹とんぼグループ）
- ③ その他（状況に応じて）



～共に考え、共に学ぶプログラム～

## 気仙に学ぶ！まっさきに学ぶ！



震災・復興をふりかえり、  
コミュニティ再生に向けた  
自律的な活動へ

- ・ 避難所運営ゲーム
- ・ 熊本報告会
- ・ まっさき活動意見交換会

避難所運営ゲーム

実際に避難所の運営や  
避難所生活を体験した人が加わり、  
リアリティある避難所運営体験ができました。

熊本報告会

熊本地震を題材に地域課題の情報共有、  
対話によるコミュニティづくり、そのための  
公民館の存在意義を考える活動でした。

まっさき活動意見交換会

これまでの活動を地元が主体となって  
どのように継続していくか、話しあわれました。






図 1. H28 年度活動 プログラム概要（「まっさきに学ぶ」）



～共に考え、共に学ぶプログラム～

## 気仙に学ぶ！まっさきに学ぶ！



視察研修


- ・ 碇状浜、碇状岬、穴通し磯などの景勝地
- ・ 穴通し船 乗船
- ・ 碇状地区周辺の梅林、畑の鹿被害など
- ・ 細浦復興朝市
- ・ 長洞元気村トレーラーハウス
- ・ ハス園
- ・ 広田半島、広田崎の日の出

実際に被災地を視察し、  
復興状況を見て、復興に活躍  
している地域の人々と接し、  
復興や将来のまちづくりにつ  
いて共に考える。


→

- ・ まちづくり、人づくり
- ・ 地域の魅力再発見


穴通し船




穴通し磯




ハス園




穴通し磯




長洞元気村トレーラーハウス




穴通し磯



穴通し磯



穴通し磯






図 2. H28 年度活動 プログラム概要（「視察研修」）

### 3. H28 年度活動の実施概要

#### (1) 協議・打合せ

今年度は国の委託事業では必須となる運営協議会を割愛し、事務局と公民館で適宜会議・打合せを行い、プログラム、スケジュール、広報、参加ターゲットへのアプローチなどを調整し、活動を準備しました。

表 3. 活動内容・参加者集めなど運営に関する打合せ・協議の実施

実施年月日	内容と出席者	実施場所	備考
5月15日(日) 13:00~15:00 (2.0h)	<p>[議題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27年度事業計画、予算説明</li> <li>・今年度活動のポイント・課題の共有</li> </ul> <p>PC・ネットよらず相談の現地協力者について、 該当者の心当たり、紹介を依頼</p> <p>* 末崎町在住のIT事業者が現地協力者の候補者の一人として話題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月活動のプログラムの内容と参加者確保</li> </ul> <p>避難所運営ゲーム(HUG)の説明</p> <p>参加して欲しいメンバーとして防災関係者、公民館関係者の確保を依頼</p> <p>[協議者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館2名、KK<sup>2</sup> 1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</li> </ul>	
6月19日(日) 13:00~15:00 (2.0h)	<p>[議題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月活動について</li> </ul> <p>避難所運営ゲームに続くワークショップスタイルのプログラムについて意見交換、熊本地震災害を題材に話し合いの場を設ける方向とする。</p> <p>[協議者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館1名、KK<sup>2</sup> 1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所ハウス</li> </ul>	
8月6日(土) 16:00~17:00 (1.0h)	<p>[議題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月活動について</li> </ul> <p>熊野神社式年大祭の開催スケジュールに合わせて実施することを確認。地域の方々とよそ者が一緒に祭りを体験する方向。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</li> <li>*8月7日の「夏休み親子ものづくり教室」に合わせて設定</li> </ul>	

H28「デジタル公民館まっさき」活動報告書

	<p>[協議者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館 1名、KK<sup>2</sup> 1名</li> </ul>		
<p>9月20日(火)</p> <p>16:00~17:00</p> <p>(1.0h)</p>	<p>[議題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月活動について</li> <li>熊野神社式年大祭の映像記録について</li> <li>ビデオ撮影チームの祭り組や式典行事取材への協力依頼。海上渡御の船上撮影の手配依頼。</li> </ul> <p>[協議者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館 2名・協力者 5名、KK<sup>2</sup> 3名</li> </ul>	<p>【TV会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</li> <li>・霞が関ナレッジスクエア</li> <li>(KK<sup>2</sup>)</li> </ul>	
<p>11月6日(日)</p> <p>15:00~16:00</p> <p>(1.0h)</p>	<p>[議題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月活動について</li> <li>熊野神社式年大祭映像記録上映会とDVD・写真ファイルを各祭り組へ寄贈することとし、全祭り組関係者の参加を働きかけることとする。</li> <li>・「PC・ネットよろず相談」の12月活動では時節柄(新居、祭りなど)写真を使った年賀状づくりを取り上げて欲しい</li> <li>・次年度活動の話し合いの場</li> <li>10月の意見交換会ではあまり意見が出なかったの で、次は率直に話し合える雰囲気 の意見交換会とする。具体的 に協力要請していただきKK<sup>2</sup> がその場で回答する場としたい。</li> </ul> <p>[協議者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館 1名・協力者 2名、KK<sup>2</sup> 1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</li> <li>*文化祭の片付け終了後、展示の設営・撤去を手伝ってくれた村上征一さん(西館公民館長)、菊池則子さんと相談、新沼館長の了解を得る。</li> </ul>	

2月3日 13:30~15:30 2.0h	【議題】 29年度事業打合せ ・参加者グループの話し合い結果、自主活動計画、KK <sup>2</sup> 、活動スタッフへの要望 ・公民館の考え、計画、予算措置方針とKK <sup>2</sup> への要請について ・要請に対するKK <sup>2</sup> の対応について PC・ネットよろず相談グループ、竹とんぼグループとも、29年度自主的に活動する。公民館は4月の審議会インターネットの通信回線費用を申請し、次年度自前予算とする。無線LAN、Webサーバ環境は引き続きKK <sup>2</sup> で支援する。 【協議者】 公民館 2名、KK <sup>2</sup> 2名、協力者 1名	末崎地区公民館 (ふるさとセンター)	
活動スタッフ (KK <sup>2</sup> ) 9名、参加者0名、その他 (公民館・協力者) 17名 合計 26名			

## (2) 定期活動・特別活動の現地参加者・活動スタッフ数

2016年度の参加実績（運営等の協議、事前説明会等は除く）は、現地参加者356名、活動スタッフ44名、その他（協力者）30名で、総計：430名でした。

表4. 活動プログラムごとの実績

第1回 5月活動 (28日-29日)	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
PC・ネットよろず相談 (1日目午後)	7			
早朝視察 (2日目早朝)	1			
PC・ネットよろず相談 (2日目午前)	4			
避難所運営ゲーム (2日目午後)	2	2		
合計	3	4		9
第2回 7月活動 (30日-31日)	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
PC・ネットよろず相談 (1日目午後)	1	0		
長洞元気村視察 (1日目夕方)	1		1	
穴通し船による視察 (2日目早朝)	4			
ハス園視察 (2日目早朝)	1			

## H28「デジタル公民館まっさき」活動報告書

PC・ネットよろず相談（2日目午前）	7			
熊本震災報告の集い（2日目午後）	10			
合計	33	7	1	41
<b>第3回 10月活動(14日-16日)</b>				
	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
熊野神社式年大祭（2日目午後）	2			
PC・ネットよろず相談 （3日目午前～午後）	6			
意見交換会（3日目午後）	6			
合計	14	11	0	25
※活動スタッフの内2名は祭の撮影隊				
<b>第4回 12月活動(10日-11日)</b>				
	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
PC・ネットよろず相談（1日目午後）	8			
竹とんぼ講師講座（1日目午後）	2		6	
熊野神社式年大祭上映会（1日目夜）	20			
ミ二門松づくり（2日目午前）	43		7	
PC・ネットよろず相談（2日目午後）	9			
意見交換会（2日目午後）	15			
合計	97	10	13	120

<b>特別活動1（8月7日）</b>				
	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
夏休み ものづくり教室	28	2	10	40
<b>特別活動2（11月4日～6日）</b>				
	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
末崎町民文化祭	150	5	6	161
※現地参加者は展示ブース訪問者、その他は現地スタッフ・協力者				
2016年度参加者 総計				
	356	44	30	430

**(3) 研修会（ワークショップ・意見交換会等）の実施**

研修会の実績は、現地参加者 100 名、活動スタッフ 61 名の総計 161 名でした。

表 5. 研修会・講演会等の実績

構成員・人数	開催年月日	内容	開催場所	備考
活動スタッフ 8 名 参加者 0 名 合計 8 名	2016 年 5 月 26 日(木) 19:00 ~ 21:00 (2.0h)	<b>【勉】第1回 事前説明会</b> ・自己紹介 ・活動の趣旨、目的説明、役割分担 ・活動スケジュール説明	・霞が関ナレッジスク エア  (KK <sup>2</sup> )	
活動スタッフ 9 名 参加者 1 名 合計 10 名	5 月 29 日(日) 8:00 ~ 8:50 (1.0h)	<b>【公】細浦復興朝市視察</b> ・出展者・自治会関係者と活動スタッフ の情報交換	・細浦地区など	
活動スタッフ 9 名 参加者 22 名 合計 31 名	5 月 29 日(日) 13:30 ~ 16:00 (2.5h)	<b>【公】まっさきに学ぶ (避難所運営ゲーム)</b> ・ゲームの概要説明とゲームの実施 ・各グループの発表・質疑、まとめ	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F 会議室	
活動スタッフ 8 名 参加者 0 名 合計 8 名	7 月 27 日(水) 19:00 ~ 21:00 (2.0h)	<b>【勉】第2回 事前説明会</b> ・自己紹介 ・活動の趣旨、目的説明 ・活動スケジュール説明	・霞が関ナレッジスク エア  (KK <sup>2</sup> )	
活動スタッフ 7 名 参加者 3 名 合計 10 名	7 月 30 日(土) 16:30 ~ 18:00 (1.5h)	<b>【公】近隣視察</b> ・長洞元気村トレーラハウス見学 ・トレーラハウス設置の趣旨、 経緯、使用計画 ・意見交換	・長洞元気村 高台移転住宅地	
活動スタッフ 7 名 参加者 4 名 合計 11 名	7 月 31 日(日) 6:00 ~ 7:00 8:00 ~ 8:50 (2.0h)	<b>【公】早朝視察</b> ・穴通し船に乗船し、海上視察 ・ハス園視察	・穴通し磯周辺海上 ・ハス田、ハス池	
活動スタッフ 7 名 参加者 10 名 合計 17 名	7 月 31 日(日) 13:30 ~ 16:00 (2.5h)	<b>【公】まっさきに学ぶ</b> ・熊本報告会 ・グループ対話	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F 会議室	

H28「デジタル公民館まっさき」活動報告書

活動スタッフ 10名 参加者 0名 合計 10名	10月12日(水) 19:00～21:00  (2.0h)	<b>【勉】第3回 事前説明会</b> ・自己紹介 ・活動の趣旨、目的説明 ・活動スケジュール説明	・霞が関ナレッジスク エア  (KK <sup>2</sup> )	
活動スタッフ 5名 参加者 0名 合計 5名	10月16日(日) 5:00～7:00 8:00～8:50  (2.0h)	<b>【公】早朝視察</b> ・広田半島広田崎の日の出を観賞 ・穴通し磯、赤土倉	・広田半島 ・末崎周辺の景勝地	
活動スタッフ 11名 参加者 6名 合計 17名	10月16日(日) 14:00～15:30  (1.5h)	<b>【公】まっさきに学ぶ</b> ・まっさき活動意見交換会 今年度で活動を終了するにあたり、地元主体で行い、KK <sup>2</sup> の支援を受けるにはどうしたらよいか意見交換した。	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
活動スタッフ 9名 参加者 0名 合計 9名	12月6日(火) 19:00～21:00  (2.0h)	<b>【勉】第4回 事前説明会</b> ・自己紹介 ・活動の趣旨、目的説明 ・活動スケジュール説明	・霞が関ナレッジスク エア  (KK <sup>2</sup> )	
活動スタッフ 10名 参加者 15名 合計 25名	12月11日(日) 14:45～15:45  (1.0h)	<b>【公】まっさきに学ぶ</b> ・まっさき活動意見交換会 「デジタル公民館まっさき」のこれからを、主としてPCよろず相談の活動と、竹とんぼづくり、ミニ門松づくりについて話しあった。特にPCよろず相談は結論に至らず、年明けに意見交換のための自主的な集まりを開くことになった。	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
活動スタッフ 100名〈延べ数〉、参加者 61名 合計 161名				
※【公】公民館での、まちづくり・人づくり、地域創生を学ぶプログラム				
【勉】デジタル公民館まっさき活動を行うにあたり、講師・専門家・参加者間での打ち合わせ、意見交換、勉強会				



## (4) 地域における学習活動の実績 (PC・ネットよろず相談・竹とんぼグループ等)

「地域における学習活動」の参加者は、現地参加者：304名、活動スタッフ98名〈延べ数〉、その他（協力者）16名の総計：418名でした。

表6. 地域における学習活動等の実績

構成員・人数	開催年月日	内容	開催場所	備考
活動スタッフ 9名 参加者 7名 合計 16名	2016年 5月28日(土) 13:30～16:00 (2.5h)	<b>【PC】PC ネットよろず相談</b> ・PCやインターネットの個別相談対応 初参加者のエクセルの相談に加え、常連参加者の SNS やエクセル利用が進んだ。	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F 会議室	
活動スタッフ 7名 参加者 4名 合計 11名	5月29日(日) 9:00～12:00 (3.0h)			
活動スタッフ 2名 参加者 6名 合計 8名	5月29日(日) 9:00～12:00 (3.0h)	<b>【シ】まっさき竹とんぼグループ</b> ・ミーティング 夏休みものづくり教室の制作物について話し合った。	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F 研修室	
活動スタッフ 7名 参加者 10名 合計 17名	7月30日(土) 13:30～16:00 (2.5h)	<b>【PC】PC ネットよろず相談</b> ・PCやインターネットの個別相談対応 従来のPC、インターネット、メールの相談に加え、ボイスレコーダの扱い方などの相談があった。また、地元の方が相談相手としてご参加くださり、参加者同士の交流も増えた。	・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F 会議室	
活動スタッフ 7名 参加者 7名 合計 14名	7月31日(日) 9:00～12:00 (3.0h)			
活動スタッフ 2名 参加者 28名 その他 10名 合計 40名	8月7日(日) 13:00～16:00 (3.0h)	<b>【シ】夏休みものづくり教室</b> ・親子、孫、二世帯、三世帯で竹とんぼや蝶を制作、ものづくりの楽しさを満喫した。	・居場所ハウス	
活動スタッフ 11名 参加者 2名 合計 13名	10月15日(金) 10月16日(土) 11:30～15:30 (4.0h)	<b>【祭】中森熊野神社式年大祭 撮影会</b> ・11月の末崎町文化祭で上映するため撮影専門スタッフが金曜日から現地入り。 ・泊里浜漁港広場、熊野神社境内にて奉納舞、海上渡行の帰港・下船、郷土芸能の奉納舞などを撮影。	・泊里浜漁港広場～熊野神社境内	

H28「デジタル公民館まっさき」活動報告書

活動スタッフ 7名 参加者 6名 合計 13名	10月16日(日) 9:00～14:30 (5.5h)	<p><b>【PC】PC ネットよろず相談</b></p> <p>・PCやインターネットの個別相談対応</p> <p>初参加の2名を加え、昼食持参でスキル習得に取り組んでいた。</p>	<p>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</p> <p>2F会議室</p>	
活動スタッフ 1名 参加者 5名 合計 6名	10月16日(日) 9:00～11:30 (2.5h)	<p><b>【シ】まっさき竹とんぼグループ</b></p> <p>・ミーティング</p> <p>11月の町民文化祭の展示、12月のミニ門松づくりについて話し合った。</p>	<p>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</p> <p>2F研修室</p>	
活動スタッフ 5名 参加者 150名 その他 6名 合計 161名	11月4日(金) ～ 11月6日(日)	<p><b>【町】末崎町民文化祭</b></p> <p>・熊野神社式年大祭の映像上映とパソコン・ネットよろず相談、避難所運営ゲームなどの活動写真、熊野神社式年大祭の神事、海上渡御、虎舞、七福神など7祭り組の奉納舞などの写真を展示。</p>	<p>・末崎地区公民館</p>	
活動スタッフ 10名 参加者 8名 合計 18名	12月10日(土) 13:30～16:00 (2.5h)	<p><b>【PC】PC ネットよろず相談</b></p> <p>・PCやインターネットの個別相談対応</p> <p>年賀状づくりに取り組む方が参加者の</p>	<p>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</p> <p>2F会議室</p>	
活動スタッフ 10名 参加者 9名 合計 19名	12月11日(日) 13:00～14:30 (1.5h)	<p>多数を占めた。また、自分のカルテを参照し、スキルアップの足跡をたどり、今回で終了するかもしれないこの活動を惜しんでいた。</p>		
活動スタッフ 10名 参加者 20名 合計 30名	12月10日(土) 18:00～19:00 (1.0h)	<p><b>【映】熊野神社式年大祭映画上映会</b></p> <p>・文化祭会場で上映した「熊野神社式年大祭映像記録」のDVD(37分)の上映、スタッフが撮影した祭り組ごとの写真ファイル、一部パネル写真などを展示</p> <p>・碁石組実行委員長の吉田力男さんを弁士に依頼、解説・コメント付きの上映会を実施。</p>	<p>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</p> <p>2F会議室</p>	
活動スタッフ 10名 参加者 43名 合計 53名	12月11日(日) 9:00～12:00 (3.0h)	<p><b>【シ】まっさき竹とんぼグループ</b></p> <p>・ミニ門松づくり</p> <p>末崎町の竹と松を用いたオリジナルなミニ門松づくりの素晴らしさに参加者は満足度100%。アンケートではミニ門松づくりを絶賛、継続を希望する声が多かった。</p>	<p>・末崎地区公民館 (ふるさとセンター)</p> <p>2F会議室</p>	

活動スタッフ 98 名（延べ数）、参加者 305 名、その他 16 名 合計 419 名

- ※【PC】PC ネットよろず相談
- 【シ】シニアの出番づくり事業
- 【町】町民文化祭への参加と「まちおもいフォト」の作成
- 【映】まっさきふれあい映画館
- 【祭】熊野神社式年大祭の見学など

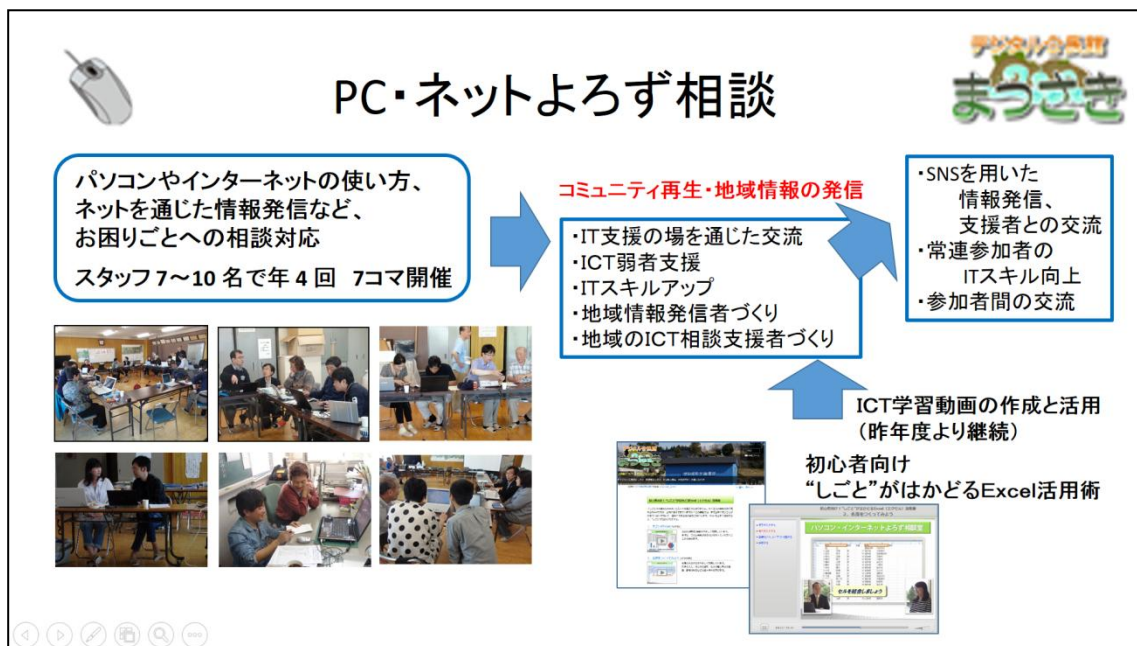


図 3. 地域における学習活動（PC・ネットよろず相談）

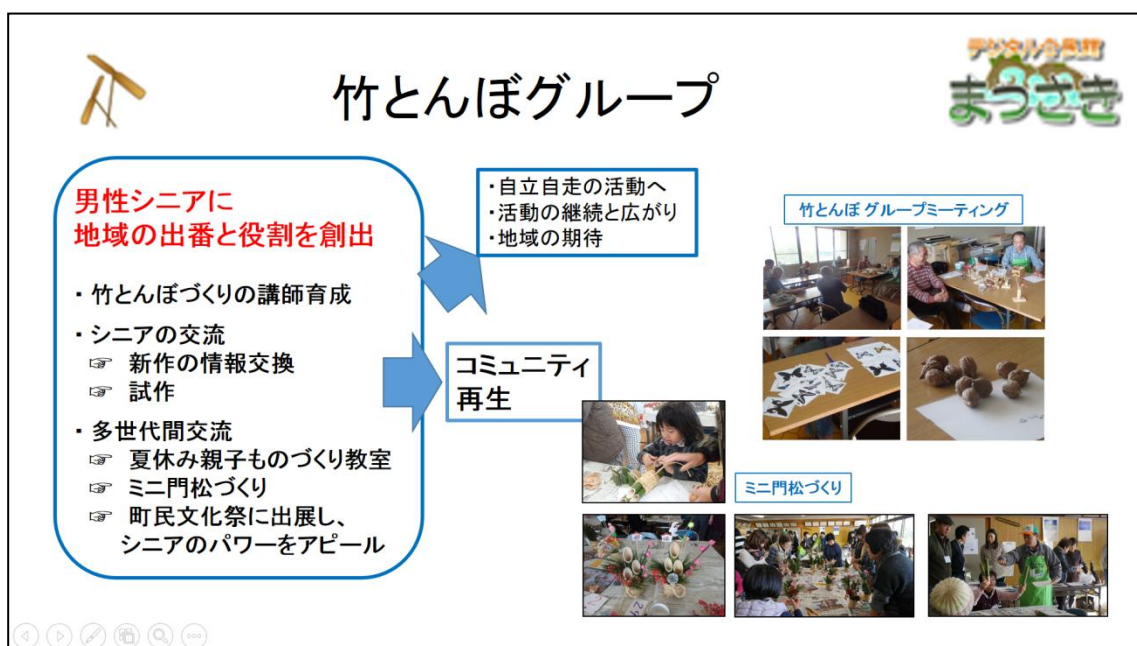


図 4. 地域における学習活動（まっさき竹とんぼグループ）



図 5. 地域における学習活動（熊野神社式年大祭撮影会、上映会）

### (5) デジタル公民館活動サイトの運営とコンテンツの公開

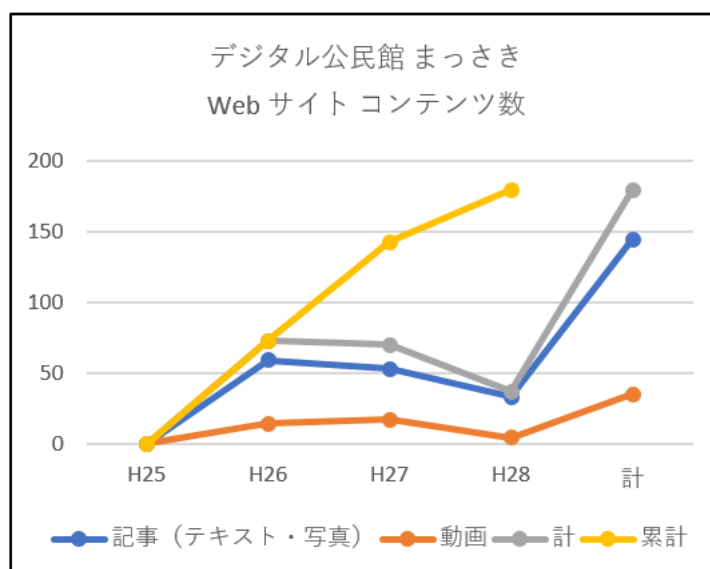
「デジタル公民館まっさき」サイトで公開されたWebコンテンツ（テキスト、写真）、映像コンテンツは表7の通りです。

表 7. 「デジタル公民館まっさき」サイトの公開コンテンツ

コンテンツ		投稿数	備考
テキスト	公民館情報	12	・館報まっさき（3月号は掲載予定）
写真	活動報告	6	・5、7、10、12月活動報告（参加者アンケート含む） ・2016年度暫定報告 ・2016年度事業報告（予定）
	地域情報	7	・ハネウエル居場所ハウス3周年感謝祭 報告 ・夏休み親子ものづくり教室 ・末崎町敬老会 報告 ・熊野神社式年大祭式典スケジュール ・熊野神社式年大祭（リアルタイム掲載） ・町民文化祭 報告 ・竹とんぼグループ 2016年度報告
	イベント案内	7	・5、7、10、12 月次活動の案内

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所運営ゲーム</li> <li>・町民文化祭</li> <li>・ミニ門松づくり</li> </ul>
	その他	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田大学国際コミュニティセンター異文化体験</li> <li>・フォトコンテスト</li> </ul>
動画	イベント映像	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中森熊野神社式年大祭映像記録（37分10秒）</li> <li>・「デジタル公民館まっさき」12月活動記録映像（4分）</li> <li>・梅神組 動画1（10秒）</li> <li>・梅神組 動画2（10秒）</li> </ul>

平成25年以降の「デジタル公民館まっさき」サイトに投稿した記事の件数（映像コンテンツを含む）と、制作した映像コンテンツを下図に示します。



	H25	H26	H27	H28	計
記事 (テキスト・写真)	0	59	53	33	145
動画	0	14	17	4	35
計	0	73	70	37	180
累計	0	73	143	180	

図 6. デジタル公民館まっさき Web サイトコンテンツ数

まっさき情報の発信方法としては次の4つ(①～④)があります。

① デジタル公民館まっさき 公式サイト (<http://www.massaki.jp/>)

WordPress(ワードプレス:無料で提供されているブログシステムの)を使ったホームページで、Webメール機能も付加し、活動スタッフや現地参加者の希望者にID、パスワードを与えて、メールアドレスを発行しています。

サイトには、次の内容(コンテンツ)を掲載しています。

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ・デジタル公民館まっさきについて      | ・まっさきわかめを学ぼう!      |
| ・館報まっさき               | ・竹とんぼ教室            |
| ・活動報告                 | ・まっさきに進む人たち        |
| ・施設予約・利用案内・問い合わせ・アクセス | ・ネットで学ぶ            |
|                       | ・パソコン・インターネットよろず相談 |

サイトの運営は、公民館、KK<sup>2</sup>事務局、サイト管理者が分担しています。公民館の広報紙「館報まっさき」のデジタルデータは、毎月20日の新聞発行に伴い末崎地区公民館スタッフがサイトアップ作業を担当。活動報告やイベント案内については事務局、コンテンツメニューや機能の変更・追加などはKK<sup>2</sup>サイト管理者が担当しました。公民館の広報、施設案内とデジタル公民館の活動報告、学習コンテンツ、地域情報、末崎町リンク集などによる末崎町最大の情報発信サイトです。メールはPC・ネットよろず相談参加者など数名が熱心に利用しています。

② デジタル公民館まっさき 公開 Facebook ページ

(<https://www.facebook.com/digitalmassaki/>)

Facebook 開設者なら誰でも情報を閲覧、投稿が可能。また、「いいね」をクリックしたり、コメントを投稿することもできます。閲覧者は大船渡市在住者、出身者、東日本大震災ボランティア関係者、一般など幅広い。

デジタル公民館まっさき公開 Facebook ページでは、地元紙やネット上の地域の情報を収集して公開するとともに、まっさき在住 Facebook ユーザの投稿をシェアして公開しています。今年度は公式サイトへのアクセス増にも繋がるよう、新たに公式サイトからリンクを貼り、投稿すると Facebook ページにも自動的に反映する機能を付加しました。

③ デジタル公民館まっさきPJ 秘密のグループ Facebook

このFacebookは、管理者が招待した特定のメンバーのみ、閲覧したり、投稿することができます。一般の方でも閲覧はできるが投稿はできない「非公開Facebook」では投稿・公開しないPJに関わる細かい情報も共有しています。したがってメンバーはデジタル公民館活動への参加者（活動スタッフ、現地参加者）で、Facebookを開設している人と一部、KK2での報告会や交流活動に参加したことのある末崎町出身者に限定しています。2017年3月現在、活動スタッフ経験者約56名、現地参加者約30名の計86名が登録しています。

これらの運用と「PC・ネットよろず相談」活動を通じて、現地の方々のFacebook開設者をコツコツ増やし、活動スタッフとのネットを通じた交流が盛んになりました。末崎町の四季折々の自然の風物詩、地域の出来事、地場産業の様子などの発信により、多様な人たち（離れて暮らす家族、親戚、友人・知人、幼馴染・同窓生など）に刺激と繋がりをもたらしています。これは直接的にも間接的にもデジタル公民館活動の大きな成果です。

④ KK<sup>2</sup>「人と人の絆と地域の再生 2016「デジタル公民館まっさき」

(<http://www.kk2.ne.jp/kk2/biz01/p1-14.html/>)

霞が関ナレッジスクエア事業として「デジタル公民館まっさき」の事業趣旨、活動内容・スケジュールの告知、活動スタッフ募集、活動報告、アンケート結果(参加者・活動スタッフ)などを公開しています。

The image shows a screenshot of the website 'デジタル公民館まっさき' (Digital Citizen Hall Massaki). The main heading is '公民館からの情報発信' (Information Dissemination from the Citizen Hall). The website layout includes a header with the logo, a main banner, and several content blocks. A callout box on the right lists various information dissemination methods:

- Facebookメール
- 地域住民の交流
- 活動スタッフと参加者との交流

Another callout box lists the types of information disseminated:

- イベント告知
- 地域情報発信
- 毎月20日発行「館報まっさき」を掲載
- 館内施設予約状況を案内
- 活動報告
- 過去の講演動画
- 「末崎わかめ」の情報発信
- たけとんぼグループの活動
- まちおもしろフォト
- Excel学習動画
- ブログ、フェイスブック、ホームページに案内
- 末崎町の個人・商店
- 観光施設、寺社
- 復興・再生活動 など

At the bottom left of the screenshot, the website URL is provided: <http://www.massaki.jp/>

図7. 公民館からの情報発信

## (6)末崎地区公民館等の PC・ネット利用状況

末崎地区公民館等に整備した PC、ネットの利用状況を次ページに図示します。

### ① 公民館事務室

昨年度に比し、公民館 1F 事務室の稼働時間が顕著に上がっています。これは公民館職員のパソコン利用が格段に増えたことを示しています。この稼働時間はそのまま無線 LAN 経由によるインターネット利用時間を表しているわけではありません。しかし、「館報まっさき」のサイトアップ作業が 28 年度より公民館事務室のパソコンから行われていることから、公民館業務によるネットアクセスも増えていることは確かと言えるでしょう。

### ② 2F 会議室・研修室、1F 廊下・和室

2F 会議室・研修室、1F 廊下・和室の利用状況は昨年度並みでした。今年度は夏休みの期間、7 月から 8 月にかけての利用が低調でした。昨年度にはない傾向です。理由は無線 LAN-AP 装置やパソコンの電源のコンセントが外れていたり、パソコンの無線 LAN のオン・オフボタンがオフになっていた期間が例年より増えたためと思われる。したがって管理上の問題はあっても、それを除くと全体的な利用は堅調でした。少年野球や少年サッカーなどの祝勝会利用時の保護者のニーズをはじめ、公民館利用者のインターネット利用ニーズは継続的にあるものと思われる。可能であればノート PC から、より使いやすいデスクトップ PC に切り替えたいところです。

\*2 階会議室・研修室については、5 月、7 月、10 月、12 月のデジタル公民館活動中のアクセス時間は外して集計しています。

### ③ 小中井仮設住宅談話室（集会所・自治会）

28 年度は 5 月の連休、もしくは 5 月末で、入居されている住民の移転がほぼ終了するということでした。しかし、引っ越しがずれた関係で 1 か月伸ばし、6 月いっぱいインターネットの無線 LAN 環境を停止しました。以後、引っ越し移転先では利用者自身による高速通信回線の設置とインターネットプロバイダとの契約に切り替えさせていただきました。

28 年度は 4 月の利用でほぼ終了していますが、図 10 で明らかなように前年の 9 月～12 月にかけては高台移転や碁石地区復興のまちづくりの関係が頻繁にパソコンやネットが利用されています。



27年度のPC・ネット利用の最大の特徴は公民館事務室での活用でしょうか。いまや公民館業務でのパソコン使用はスタンドアロンでの使用に留まらず、インターネットの活用が必須の時代です。そういう側面からみても、公民館のインターネット環境、無線LAN環境の維持、整備は欠かせないものと推察されます。地域住民による自主的なパソコン・ネット学習利用の場、公民館利用者を中心とした住民向けのパソコン・ネット提供の場と併せて、末崎地区公民館にはネット環境を維持・確保するための自主予算の計上を切望します。そのことをベースに交流の継続を計画したいと考えています。

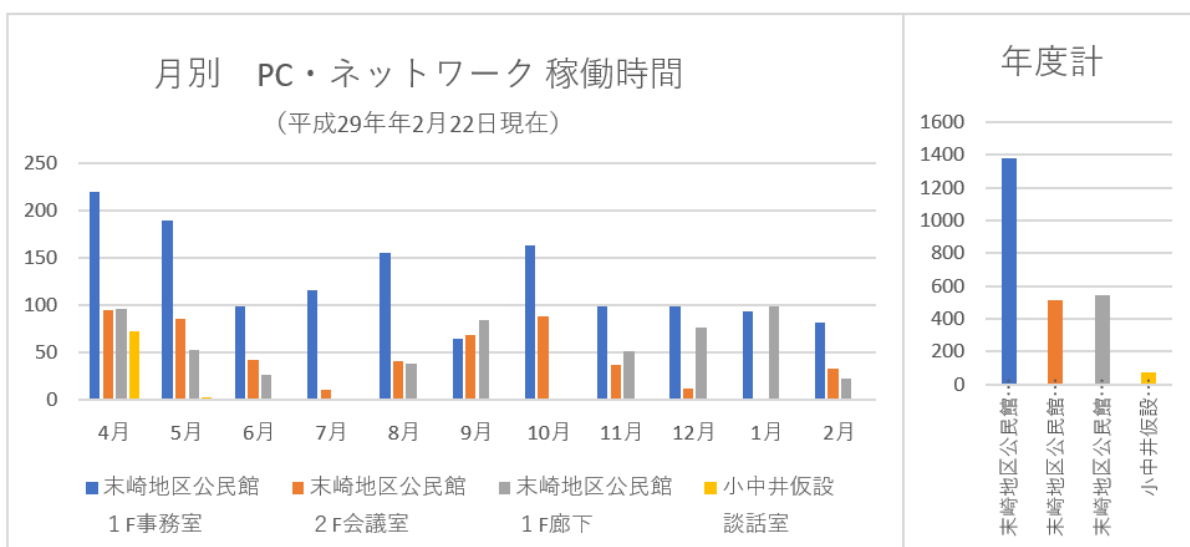


図 8. H28 年度 月別 PC・ネットワーク稼働時間

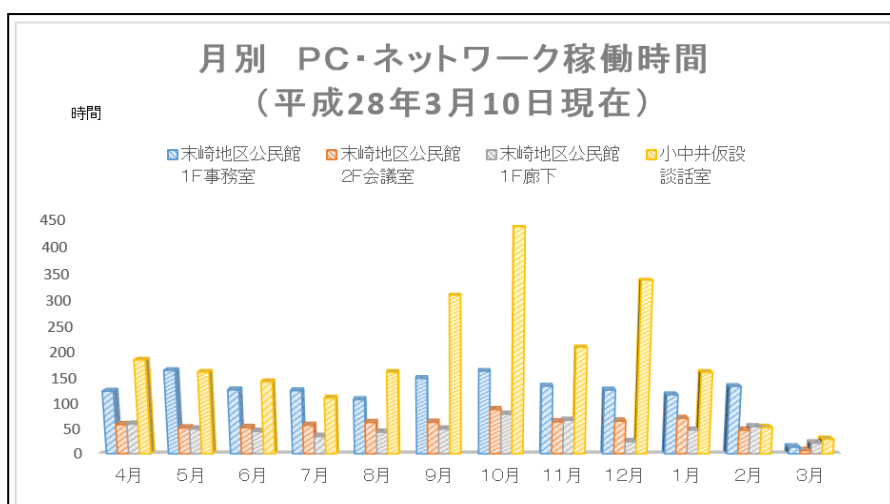


図 9. H27 年度 月別 PC・ネットワーク稼働時間

### 第3章 2016年度活動の成果と課題

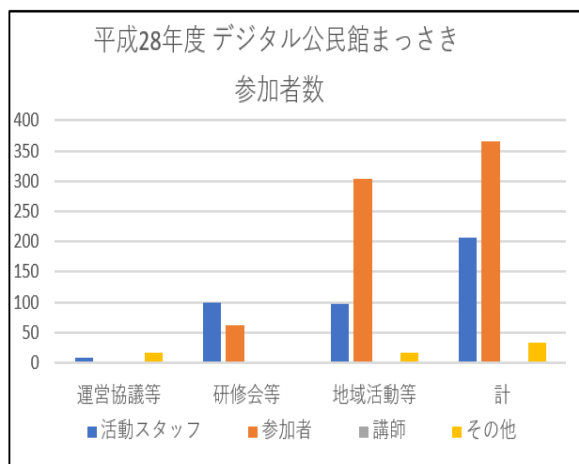
#### 1. 実施した活動の参加者数・参加回数から見た成果と課題

実施した主な活動毎の参加者数について、以下の図に記載します。なお、各月の個別の活動実績については、表4（P13）に記載しています。本活動に参加した総数は、活動スタッフ207名（延べ数）を含む、総数605名(図表1)でした。

避難所運営ゲーム（5月）、熊野神社式年大祭上映会（12月）など新しい切り口のプログラムにより、これまでとは異なる初参加者もありましたが、5回以上の参加者が引き続き多数を占める結果でした。

図表1.

[デジタル公民館まっさき 参加者数]

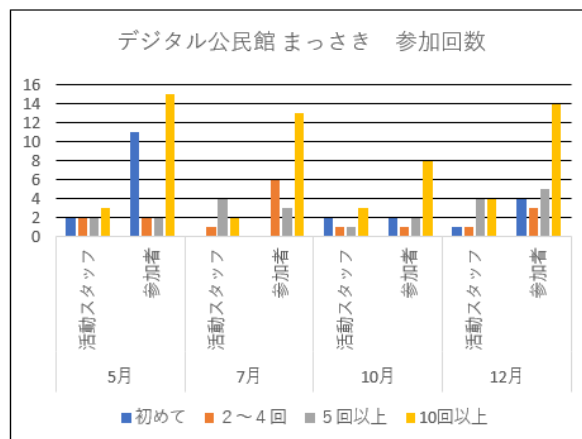


	運営協議等	研修会等	地域活動等	計
活動スタッフ	9	100	98	207
参加者	0	61	304	365
講師	0	0	0	0
その他	17	0	16	33
計	26	161	418	605

図表2.

[デジタル公民館まっさき参加回数]

(アンケート回答より)



		初めて	2～4回	5回以上	10回以上
5月	活動スタッフ	2	2	2	3
	参加者	11	2	2	15
7月	活動スタッフ	0	1	4	2
	参加者	0	6	3	13
10月	活動スタッフ	2	1	1	3
	参加者	2	1	2	8
12月	活動スタッフ	1	1	4	4
	参加者	4	3	5	14

定期活動数が昨年度の5回から4回に減少しましたが、避難所運営ゲーム（HUG）、熊野神社式年大祭 DVD 上映、まっさき活意見交換会・・・などの新しい切り口のプログラムにより、現地参加者の参加数は例年に比べても見劣りはなかったのではないのでしょうか。

活動スタッフの参加数については、定期活動が1回減少したこと、1回当たりの参加定員を少なくした影響で減少しているのはやむをえませんが、社会人の往復交通費自己負担を考慮するとますますの参加者数ではないのでしょうか。

参加回数で見ると現地参加者も活動スタッフも5回以上、10回以上、という方が多く、固定化傾向が見られます。他方、避難所運営ゲーム（5月）、熊野神社式年大祭上映会（12月）の広報チラシを、町内の防災・自治会関係者、自治会・祭り組関係者に参加を呼び掛ける内容にしました。また、公民館サイドからも対象層に働きかけていただいた結果、「初めて」の参加者数に繋がっています。

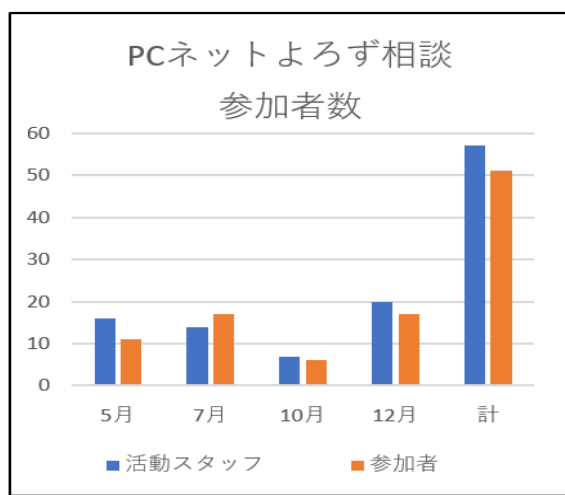
5月の避難所運営ゲームには、実際の町内の地域防災リーダー、婦人防火クラブ、避難所リーダー、避難所経験者、消防OB、市の防災危機管理室・・・などから参加がありました。また、12月の映画上映会には、参加した各祭り組にはDVDと写真ファイルを寄贈することを強調して案内しました。そのこともあり、熊野神社式年大祭式典実行委員会を構成する7集落（梅神、小河原、門之浜・中井、西館、碁石、山根、三十刈・・・）の7祭り組からもれなく代表者や関係者の参加を実現しました。DVD上映とトーク終了後、DVDと写真ファイルの寄贈を行ったため、アンケートを書いていた時間がバタバタになってしまい、図表2の集計結果からは10数人「初めて」の方が抜けていると思われます。

11月の末崎町文化祭、12月の映画上映会に繋がった10月活動の熊野神社式年大祭参加をプログラムに組み込んだことは良かったのですが、7月活動はタイミング、内容、工夫が企画調整不足でした。まっさき竹とんぼグループの「夏休み親子ものづくり教室」と、こちらの第2回活動との連携を模索したのですが、現地側の事情で「夏休み親子ものづくり教室」は8月7日自主開催が決まりました。ところが6日は大船渡漁港の花火大会、7日は陸前高田で動く七夕祭りがあり、宿泊施設の確保がむずかしかったため、事務局として当初計画通りの7月末の土日開催にしました。もっと早い段階で調整し、土曜の午後はパソコン、夜は花火、日曜の午前は動く七夕、午後はものづくり教室など、交流人材としての活動スタッフが、より現地に親しむプログラムに出来なかったことは反省点です。

## 2. 「PC・ネットよろず相談」の成果と課題

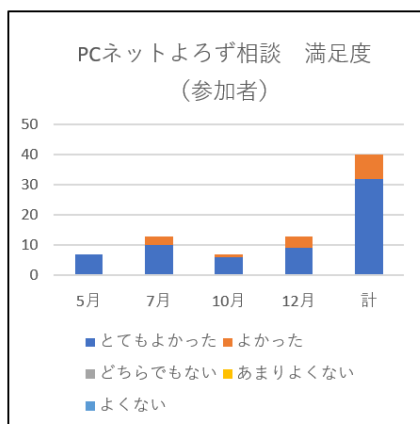
「PC・ネットよろず相談」活動（7コマ）の参加者は、活動スタッフ57名〈延べ数〉、参加者51名〈延べ数〉、総計108名でした。1コマ平均で見ると参加者が7.2名に対し、活動スタッフが8.1名、参加者よりスタッフがやや多いという結果です。お困りごと、覚えたいことにマンツーマンで対応するというスタイルで実施してきましたので、まずまずの数字とも言えます。一方、活動スタッフの募集人数を8名（想定参加者を10～15人）とした経緯から見ると、この参加者数は少々もの足りません。満足度の面からは参加者、活動スタッフ双方とも満足度は高い結果となっています。

図表3. [参加者数]



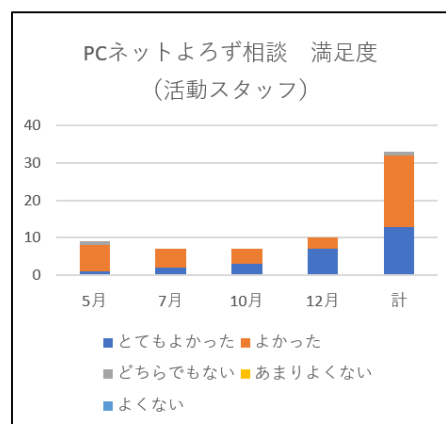
	5月	7月	10月	12月	計
活動スタッフ	16	14	7	20	57
参加者	11	17	6	17	51
計	27	31	13	37	108

図表 4. [満足度] (※) 参加者全員からアンケート回収できていないので、回収できた範囲での満足度になる。



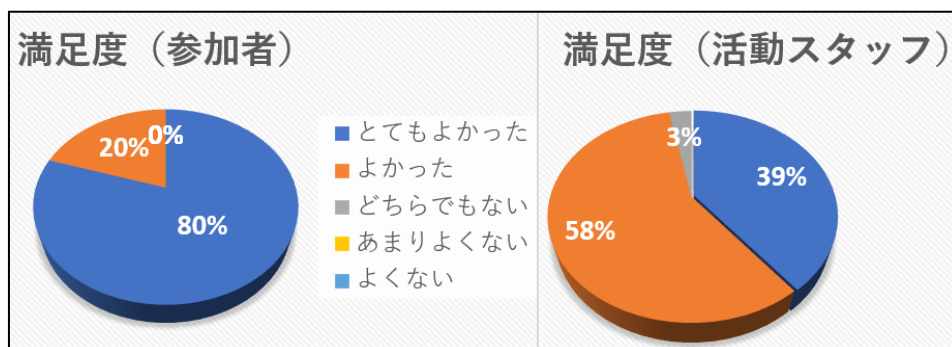
参加者

満足度	5月	7月	10月	12月	計
とてもよかった	7	10	6	9	32
よかった	0	3	1	4	8
どちらでもない	0	0	0	0	0
あまりよくない	0	0	0	0	0
よくない	0	0	0	0	0



活動スタッフ

満足度	5月	7月	10月	12月	計
とてもよかった	1	2	3	7	13
よかった	7	5	4	3	19
どちらでもない	1	0	0	0	1
あまりよくない	0	0	0	0	0
よくない	0	0	0	0	0



### (1)多様なニーズにきめ細かく対応

東京から訪問する専門スタッフと交流しながら ICT の技能を高めたり、困りごとを解決する活動「PC・ネットよろず相談」を、4回7コマ、20.5時間実施しました。このプログラムの特徴は、毎回テーマを決めて参加者が一斉に同じことを学ぶ「〇〇講座」ではなく、参加者一人ひとりのお困りごと、今日、覚えたいことに対応する「個別・よろず相談」のスタイルにあります。持ち込まれる相談の内容は、ワードやエクセルを覚えたい、上達したい、文章に写真やイラストを貼り付けたいとするスキルアップニーズ、メールやフェイスブックをやってみたいというネット利用ニーズ、久しく使っていなかったのうまく

動かない、ソフトを更新したら動かなくなったなどのトラブル対応・・・などなど多様です。

個別対応というスタイルから参加者・スタッフとも一人一人の満足度は当然高くなります。アンケートでも80%の方が「とてもよかった」と回答しています。これは活動スタッフ数と参加者数のバランス、スタッフのスキル、教え方、接し方が良かった結果ともいえます。しかし、活動スタッフの募集人数を8名（想定現地参加者を10～15人）とした経緯から見ると、この参加者数はやはりもの足りません。

## **(2)参加者は前年度比 1回あたり1.6名減少**

27年度は5回、10コマ、26・5時間開催し、参加者総数は88名（28年度55名）、1コマ当たりの平均人数は8.8人（同7.2名）でしたので、1.6名減少しています。同様に1コマ当たりの活動スタッフ数を比較すると27年度は11.8名、28年度は8.1名で3.7名減でした。この結果から「PC・ネットよろず相談」への参加ニーズは明らかに減少したことを表していると考えられます。とくに5月、7月活動は低調でした。参加者の減少は、主催者の努力不足、土日開催、昼間開催というスケジュール関係の問題、あるいは「PC・ネットよろず相談」ということ自身が、どんな内容か、だれが行っているのか、何かの商売・営業がらみではないのか、など実際のところがまだあまり知られていないなどの要因が考えられますが、それを明確にすることはできませんでした。

## **(3)Excel学習・お祭り・年賀状づくりなどで成果**

活動の効率を高めるため、昨年度に作成した学習動画コンテンツ「初心者向け”しごと”がはかどるExcel活用術」を活用し、次の活動機会までの期間に住民が自発的に学べるようにネット上の学習環境を整備してきました。

加えて今年度活動の特色として、10月活動、12月活動の取り組みが上げられます。10月活動では、従来 of 活動に加え、熊野神社式年大祭を撮影した写真データをFacebookにより情報発信する活動を実施しました。常連の参加者の何人かが、自ら写真データをFacebookに投稿していました。地道な活動ではありましたが、少しずつ参加者のITスキルは向上し、自ら情報発信できるレベルになっています。

12月活動では参加者が撮影した熊野神社式年大祭の写真や碁石海岸の日の出の写真を使って年賀状をデザインし、完成したデータでハガキをプリントアウトするサービスを実施しました。結果として、参加者とスタッフが教え合い、

学び合い、楽しみ合う場となりました。年賀状デザインが完成し、プリントアウトされたハガキの見事さに会場から喝さいが湧きおこりました。参加者は減少しましたが一人一人に寄り添う「PC・ネットよろず相談」活動の良さが発揮できました。

#### (4)カルテの活用

相談する側と受ける側が毎回同じ組み合わせとは限らないことから、個々の参加者がどんなことをしてどんな結果だったのか、参加者とスタッフで毎回記録を残し、情報共有することが必要です。そこで、ICT 技能レベルや各回に行った内容等を記録したカルテを3年前から作成し、運用してきました。

また、カルテの作成にあたっては、参加者が活動を通じて、どの程度スキルアップしたか定量的に読み取れるように工夫しました。同一のスタッフが継続的に特定の個人のカルテを記載できないということもあり、スキルアップを定量的に把握することについて、残念ながら十分な成果を出すことができませんでした。しかし、個人ごとの各回の相談内容を追っていくことで、スキルアップの度合いをある程度把握することができました。以下に主な事例を紹介します。

今年度の参加者の何人かは、自分のカルテを見ながら、この2年前後でかなりスキルアップしていることをあらためて認識していました。カルテは、参加者が自分のスキルアップの過程を確認するのにも有用であることがわかりました。

表 8. カルテ事例

[カルテ事例 1]	相談概要
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Facebook の投稿へのコメントやメッセージの通知を後で確認する際の操作方をしりたい</li> <li>・ メールや Facebook は面倒なので、必要最小限の利用にとどめている</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Facebook 投稿後の編集方法を覚えたい</li> </ul>
所見	<p>10月の段階では Facebook の基本操作を一人で何とかこなしているレベルであった。また、メールや Facebook も積極的に活用する意識はなかったようである。12月の活動では、Facebook について、投稿後の編集方法などの相談があった。これは、頻繁に使っていないと問題に感じないような相談である。10月から12月にかけて、Facebook の操作のスキルレベルが上がり、それまでより、頻繁に利用するようになったことがうかがえる。</p>

[カルテ事例 2]	相談概要
5月	・メールングリストのメールを受信できない
7月	・メールが文字化けする
12月	・写真をメールで送る ・PCで年賀状を作る
所見	7月までの相談は、メールの送受信に関する基本的な知識に関するものであった。12月の活動時には写真を添付したいといったメールの応用操作の相談を受けた。この間、メールの利用頻度が上がり、またメールの活用のしかたもより高度なことを求めるようになったものと思われる。さらに、PCの活用がメールだけでなく、年賀状作りなど他へ広がりつつあることがわかる。

[カルテ事例 3]	相談概要
5月	・文字を大きく印刷したい ・写真を Facebook に手間をかけずに投稿する方法はないか ・筆ぐるめの住所録がなくなった
7月	・ボイスレコーダの使い方を学びたい
10月	・祭りで撮った大量の写真を FB へ投稿したい
12月	・写真データを読み込めない ・オリジナルの年賀状づくり ・ワードの表のレイアウト調整法
所見	活動当初はメールも使用していなかった参加者である。毎回熱心に参加され、Word、Excel、Facebook の活用、どれをとっても基本操作のレベルを超え、自ら応用できるレベルに達している。相談内容も多岐にわたる。PC・ネットが日常の活動に役立つことを十分認識されている。そして、この活動を上手に利用されており、毎回着実にスキルアップを図るとともに活用の経験値を伸ばしている。

[カルテ事例 4]	相談概要
5月	・Yahoo メールが見られない ・タブレット PC で動画撮影ができない
7月	・Excel で書類を作りたい
10月	・一太郎で写真挿入し、チラシを作りたい
12月	・PCで年賀状を作成したい ・Facebook のドロップボックスから写真を入れる方法がわからない
所見	毎回、自分なりの目的、課題を持って参加していた。次々に課題をクリアし、メール、動画、ワープロ、Facebook など IT の利用範囲を広げてきた。また、個々



	の活用方法も徐々に高度化していることがわかる。
--	-------------------------

[カルテ事例 5]	相談概要
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Excel が起動できない</li> <li>・ 写真の印刷サイズの変更</li> <li>・ Facebook 投稿時、漢字変換が上手くできない</li> <li>・ Word 空白ページの削除</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Facebook 日本語入力中に文字が消える</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Facebook のパスワードがわからなくなった</li> <li>・ Word に写真を挿入したい</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC で年賀状を作りたい</li> </ul>
所見	<p>今年度もカルテを見る限り、基礎的な相談が多い。カルテからはスキルアップについて明言できない。しかし、毎回、必ず相談内容をもって参加している。そして、課題を解決している。PC・ネット利用を継続していることがわかる。課題が解決しなければ、利用継続できないのだから、本相談が利用継続に貢献していることがわかる。</p>

[カルテ事例 6]	相談概要
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールングリストに参加し、メールの送信ができない</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Facebook の使い方</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Gmail の登録</li> <li>・ Facebook 公開範囲の設定</li> </ul>
所見	<p>これまでは、毎回メールの使い方について相談にいらしていた。10月の活動時に Facebook の利用をうながしたところ、12月には Facebook の相談をもって参加された。10月から12月にかけて、Facebook を利用したことがわかる。また、IT の活用範囲を広げるきっかけづくりとして本活動が役立っていることもわかる。</p>

## (5)主な成果と課題

### ① 成果

- ・ 毎回常連参加者が多く、前年より参加者は少なかったが、各回 1～2 名の初参加者があった
- ・ 初参加者は常連参加者から誘われたり、館報を見て参加している
- ・ 毎回の参加者の満足度はかなり高い。この満足度の高さは、参加者の個々の課題、困りごとをマンツーマンで対応する活動スタイルによると思われる

- ・ 活動スタッフの満足度も高い。地元の方と個々にふれあい、コミュニケーションでき、教える側、学ぶ側を超えた境地を味わえること。参加者の問題を解決できた時の喜びに触れることで達成感が得られること。これらを通じて自分の存在を自認する場となるためだと思われる
- ・ 常連参加者のカルテを個別に確認し、ITスキルが向上していることが確認できた。地域のデジタル・デバイド解消に多少なりとも貢献している
- ・ 活動スタッフと活動期間外にSNSなどで交流するようになってきた。日常生活の中でのIT活用頻度が上がっていることがわかる
- ・ 相談内容がPCやネットだけでなく、デジタルカメラ、タブレット、ICレコーダなど多岐にわたった
- ・ カルテは、活動スタッフが参加者（相談者）の相談を受ける際に、過去にどのような相談をしていたか、スキルレベルはどの程度か知るうえで参考になった
- ・ カルテは、参加者（相談者）が自分のスキルアップを知る上でも役に立つことが分かった

## ② 課題

- ・ 参加者数は減ったがニーズ自体がなくなったわけではない。潜在的なニーズを掘り起こし、どのように活動につなげていくか検討必要
- ・ 普段の生活が戻ってきて、地域としても個人や家族としても土日の過ごし方が多様になっており、活動スタッフ側の都合に合わせて参加可能な層（高齢者・女性中心など）の限定がさらに進んでいる。潜在ニーズは平日の昼間、土曜日・平日の夜などにあるかもしれない
- ・ 地域の自助共助による活動継続はどうしたらよいか、今後継続していくための、身の丈に合った運営方法の検討
- ・ パソコンのトラブル（ハード&ソフト）の持ち込みへの相談対応は1回につき、専門性の高い活動スタッフがほぼつきっきりで数時間を要するので対応の見直しも必要
- ・ これまでの都会の活動スタッフにどのような協力・支援を求めるか
- ・ 参加者だけで話し合い、自助共助で何ができて、都会の活動スタッフの協力を必要とするのは何かを整理してもらう
- ・ 現行のカルテは記入者（活動スタッフ）の負担になるうえ、記入者により、記載内容にばらつきが出る。手軽に記載でき、大きなばらつきがなく記載できるカルテへの改善が必要。ただし、改善にあたっては、相談履歴が明らかになること、スキルアップが目に見えることが大切
- ・ 地域の方々の自主活動の場合も、その都度記録を残すのは面倒ではあるが、

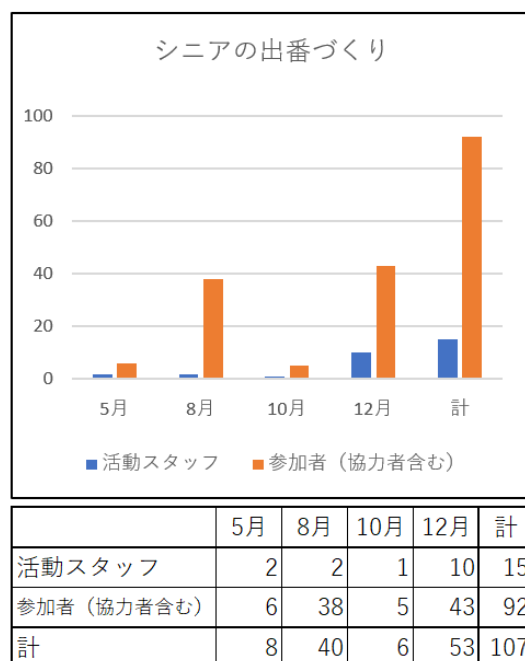
誰がいつ、何を学んで、何ができて、何はやってみたができずに持ち越されたか、次にどんな壁にぶつかるか・・・など情報を蓄積して共有することは、活動を持続するうえで有効となる。ワード文章の作成を例にすると、優しい文字の簡単な文章は作れるが、難しい旧字体の探し方がわからない、というようなことは日常茶飯事に起きてきます。こうしたスキルの習得過程の一つ一つの繰り返しをみんなで共有することで、次を予想し、対応することが可能になります。そんなふうにも頭に入れてカルテに取り組んでみてはいかがでしょうか。

### 3. シニアの出番づくりの成果と課題

(まっさき竹とんぼグループの自主活動との連携)

竹とんぼグループのシニアの地域活動は、グループが順調に成長し、地域の方々との連携もスムーズになりました。最早、自前の活動として定着し、活動スタッフは側面から支援するだけで十分という状況に達しました。デジタル公民館まっさきが協力した活動は2回ですが、参加者数92名、活動スタッフ15名、総数107名。参加者92名のうち主催のまっさきグループと現地協力者は20名という結果でした。

図表5. [参加者数]



「デジタル公民館まっさき」活動の中で誕生し、こつこつ自主活動を続けている「どこ竹@武蔵野三鷹まっさきグループ」(村上正吉代表：メンバー7名)の「夏休み親子ものづくり教室」(8月7日)、「町民文化祭展示会」(11月4日～6日)、「ミニ門松づくり」(12月11日)の活動について、昨年同様、デジタル公民館まっさき活動として協力しました。昨年はよちよち感があつた三つの活動ですが、今年度は格段に成長した印象があります。ハネウエル居場所ハウスとの協働、地元住民間の協力もスムーズになり、たとえよそ者活動スタッフの協力や支援がなくても、地域のことは地域で担うグループに成長しました。

### **(1)夏休みものづくり教室**

「夏休み親子ものづくり教室」は、小学生7人、保育園児1人の8人の子供たちと親御さん、祖父母、居場所ハウスに居合わせた高齢者など約40名で「ものづくり」を楽しみました。作ったのは竹を使った飛ばしトンボ（竹とんぼ）、エコの観点から取り入れた使用済み牛乳パック、お菓子のブリキ缶、竹を使い、天秤、やじろべえなど理科工作にも通じるバランストンボ、バランス蝶々。竹を使ったカブトムシ、クワガタなどの昆虫、クルミを使った小鳥・・・などでした。作った竹とんぼによる「飛ばしごっこ」も楽しそうでした。

ものづくり教室の準備、子ども集めの広報、子どもに難しい部分を親と一緒に手伝うなど、地域に役立つシニアとして一步一步足元をかため、近隣地区へ出前講座に出かける力もつけており、来年度の活動も期待されます。

### **(2)町民文化祭**

町民文化祭では、竹とんぼ、バランスとんぼ、虫、ことりなどの作品に加え、デジタル公民館まっさきが協力して「ミニ門松づくり」や「夏休み親子ものづくり教室」の写真を掲示し、12月活動のチラシ配布を行いました。展示ブースに立ち寄った親子数組からは、写真やチラシをみてぜひ参加したい、というリアクションがありました。

### **(3)ミニ門松づくり**

12月活動で協力した「ミニ門松づくり」は、一連の作業がスムーズに流れるよう、竹を切る工程、縄を結ぶ工程などやや難度の高い工程にサポートを重点配置するなどして工夫しました。それぞれがオリジナル門松を完成後に、完成品を手にした記念撮影と写真のプレゼントというサプライズをデジタル公民館として実施しました。親子参加、祖父母との三世代での参加もあり、参加者にもスタッフにも楽しい体験学習、交流の場になりました。受付や手助けはふれあいキッズチームと居場所ハウスおたすけ隊、実技指導はまっさき竹とんぼチーム、サプライズはデジタル公民館活動スタッフというコラボレーションがうまく行き、とても良いプログラムとなりました。

#### (4)主な成果と課題

##### ① 成果

- ・ 参加者、スタッフ共に活動に対する満足度が高く、地域活動として定着した
- ・ 地域の方々が楽しみに待っている活動、参加して楽しい活動になっている
- ・ 町民文化祭の展示においても、作品展示や活動写真の掲示などで、公民館利用者グループの中でも、とても存在感を発揮している。シニア男性グループとしては唯一の出展であり、もっと地域から評価されている
- ・ デジタル公民館活動の中で築いたネットワーク（ふれあいキッズデー企画委員、居場所ハウス運営者、おたすけ隊など）による協働がさらに進められている。
- ・ どちらかという“高齢者の居場所”とみられがちな居場所ハウスでは、児童とその親御さんが来館してくれる活動はウェルカム。お世話したいボランティアスタッフもいる。竹とんぼグループからすると活動する場所（人も組織も建物も）としてとても魅力的。

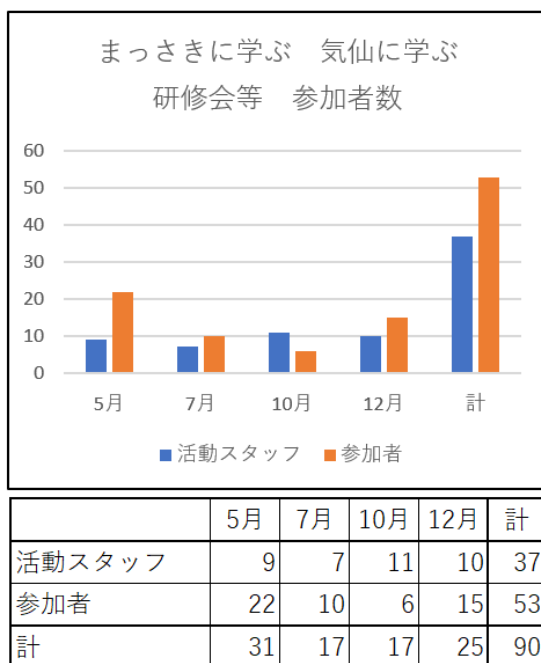
##### ② 課題

- ・ 竹とんぼ教室の講師の育成と会員増加  
（今年度現地メンバー1名が講師育成講座終了）
- ・ 若い世代の参加。シニア男性だけでなく父親世代のメンバー、女性メンバーも加わり、小学校への出前活動ニーズの発掘
- ・ 代表の負担を減らす広報、総務関係など役割の分担、リーダーシップに加えフォロワーシップの育成
- ・ 自治会の子ども会行事との連携

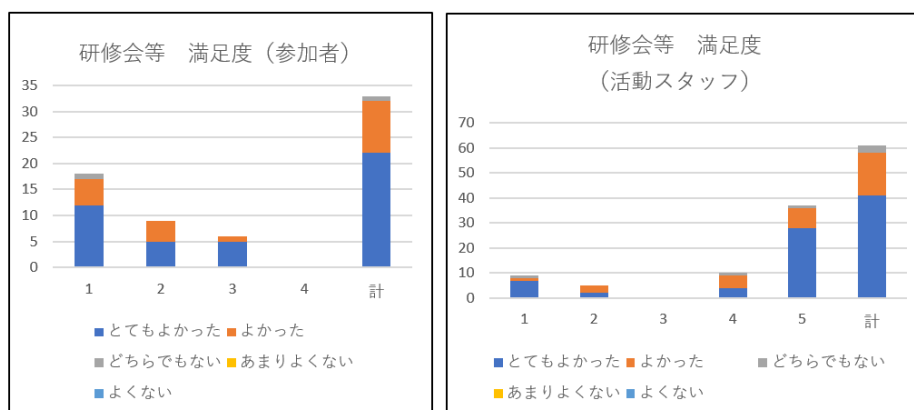
#### 4. まっさきに学ぶ！気仙に学ぶ！成果と課題

5月活動の「避難所運営ゲーム」、7月活動の「熊本報告の集い」、10月活動、12月活動の「意見交換会」の4つのプログラムを集計すると、参加者53名、活動スタッフ37名、総計90名という結果でした。数字的には物足りません。しかし、学びのスタイルとしては、講師や語り部の話を受け身で聞くのではない、ワークショップスタイルやずばり意見交換の場としましたので、いままでにない活性化された講座となりました。

図表6. [参加者数]

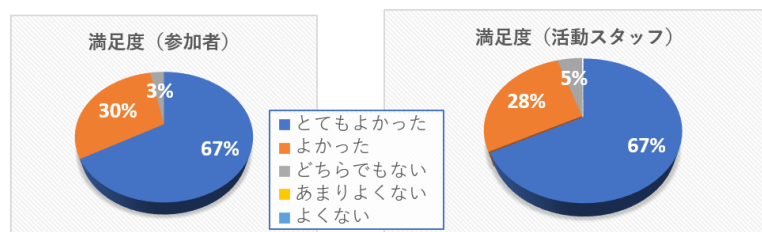


図表7. [満足度] (※) 参加者全員からアンケート回収できていないので、回収できた範囲での満足度になる。



- ※ 1. 避難所運営ゲーム (HUG)  
 2. 熊本報告 & 対話の集い  
 3. まっさき活動意見交換会 (10月)  
 4. まっさき活動意見交換会 (12月)  
 5. 近隣視察

参加者						活動スタッフ						
満足度	1	2	3	4	計	満足度	1	2	3	4	5	計
とてもよかった	12	5	5	0	22	とてもよかった	7	2	0	4	28	41
よかった	5	4	1	0	10	よかった	1	3	0	5	8	17
どちらでもない	1	0	0	0	1	どちらでもない	1	0	0	1	1	3
あまりよくない	0	0	0	0	0	あまりよくない	0	0	0	0	0	0
よくない	0	0	0	0	0	よくない	0	0	0	0	0	0



### (1) 講演会からワークショップ形式へ

「まっさきに学ぶ! 気仙に学ぶ!」シリーズの今年度は、講師や語り部による講演形式ではなく、参加者を5-6人のグループに分け、全体→グループ活動→グループ質疑・グループ発表→全体まとめ・・・というワークショップ、グループワークの講座としました。そして、講座のテーマはまっさきの方々の経験から強みを引き出すものとするを計画しました。

5月活動の避難所運営ゲーム (HUG) は地震や津波被害の未経験地域がいざという時に備える体験型ゲームであり、未経験者を対象に設計開発されたゲームです。これをあえて東日本大震災の被災地で実際に避難所になった公民館を会場に、実際に被災され、避難所生活を経験した方々に参加を呼びかけまし



たので、こうした状況を意識したファシリテーションに工夫してゲームを行いました。活動スタッフの中には自分の居住地域でこのゲームを実施している者もいて、まっさきの避難所運営ゲームの体験を地域に持ち帰りたいという目的もありました。

実施した結果、参加者の方々がとても真剣に、熱心に取り組まれたことが印象的でした。これまで実施した「まっさきに学ぶ！」の中では最も活発に意見が飛び交い、受け身ではない参加型のプログラムとなりました。アンケート結果を見ても参加者、活動スタッフとも「とてもよかった」「よかった」がほとんどを占め、満足度はとても高かったといえます。

地域の強みを引き出す参加型プログラムの導入は5月活動では、うまくいき成功しました。一方、7月活動では、熊本地震の災害現場で起こっていることを題材にまっさきの経験から熊本に生かせること、これからのまっさきに役立つことについて対話するプログラム、被災地の体験や教訓を引き出す体験型、参加型・・・などを意図しました。いつどんな災害に見舞われるかわからない現代社会の中で、自分たちが経験した東日本大震災の被災生活、支え合いを忘れずに伝えていく、繰り返し学び、地域に広めていくことの重要性を参加者全員が共有する場となりました。

## (2)意見交換の場づくり

10月と12月の活動では次年度以降の活動について「まっさき活動意見交換会」の場を設け、率直な意見交換をおこないました。12月の意見交換会では、28年度の活動で5年間続けてきたデジタル公民館活動はひと区切りつけさせていただき、次年度以降は公民館や現地側の要請に基づいて活動を計画することを伝えて話し合いに入りました。率直な意見が交わされましたが、時間切れで結論が出ませんでした。終了後、残った地域の方々と話し合い、後日自分たちだけで話し合う場を設け、自分たちとしてどうしたいのか考えることになったという報告がフェイスブック上でありました。自分たちだけで話し合う場を設けることで、自主的なグループ活動の道筋が具体化することが期待されました。

## (3)主な成果と課題

① 成果

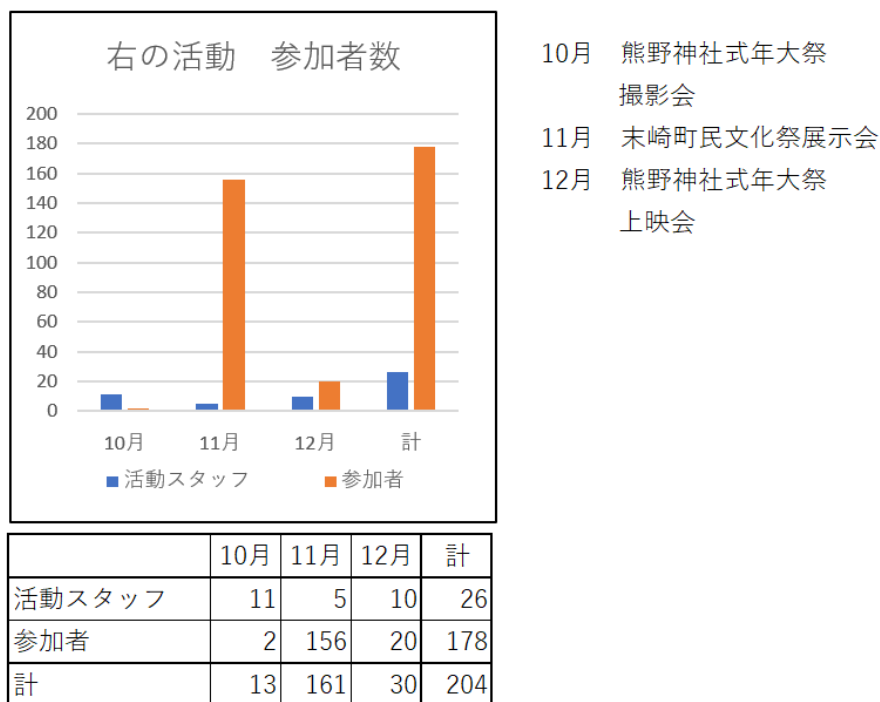
- ・ 避難所の運営や避難生活を体験した方も参加し、避難所運営訓練をやってみたことで、まっさきの方々は経験者としての強みに気がついた
- ・ 末崎町内の地域自治会や地域防災リーダーなど、はじめての参加者があり、教え合い学び合う活動として継続することの必要性・可能性を感じさせた
- ・ 都会の活動スタッフにとっては、参加者の真剣な振る舞い、発言をつぶさに見聞きすることで、改めて防災意識や災害から立ち直るレジリエンスについて学ぶ機会となった
- ・ 熊本報告会を通して、地域課題の情報共有、それを育むコミュニティの大切さや公民館の役割をあらためて認識する機会となった
- ・ 意見交換会は、地元の自主自律の活動を真剣に考えるきっかけになった

② 課題

- ・ 若い世代、現役世代の参加を促す取り組みも必要
- ・ ワークショップスタイルの学び合いの場づくり、活動の実践を自前で行うにはもう少し経験が必要か
- ・ 地域の課題などをテーマにした学習プログラムの企画開発運営スキーム
- ・ 「PC・ネットよらず相談」のような一人ひとりのお困りごとに寄り添う活動はもともとハードルが高いので、おいそれと妙案は出てこない
- ・ IT立国を標榜しながら、このままでは地域や高齢者のデジタル・デバイド ICT・デバイドはますます進んでしまう恐れがある。
- ・ 都会と地方の断絶にならないよう参加者の自助共助、教え合い学び合いを後押しする持続可能な活動が求められる。それを創出するにはどうしたらよいか

## 5. 熊野神社式年大祭の成果と課題

図表 8. [参加者数]



熊野神社式年大祭関係等、その他の主な活動は次の通りです。

- ・熊野神社式年大祭参加&撮影会（10月15日）
- ・末崎町民文化祭 映像上映会・写真展示会（11月4日—6日）
- ・熊野神社式年大祭映像記録（37分） 上映会（12月10日）

### (1)熊野神社式年大祭 当日

記録映像撮影スタッフ2名、事務局1名が前日現地入りして、ロケハンと周辺の撮影を行いました。当日は子どもの化粧・着付けが早朝から行われている碁石公民館と碁石地区コミュニティセンターを訪問、祭りに向けた集落の雰囲気撮影させていただきました。熊野神社への奉納舞は7祭り組すべて収録できました。また、特別に神輿を乗せた船の海上渡航にも乗船させていただき、船上で行なわれた神事など貴重なシーンも撮影しました。

活動スタッフは当日11:30頃、泊里漁港に到着、浜での奉納芸の披露を視察しました。写真撮影やFacebookへの投稿を行い、リアルタイムに式年大祭

を発信しました。子どもからお年寄りまで集落を挙げて行う祭りをつぶさに体験しました。

普段、住んでいるところも、ふるさとも、神仏・宗教もバラバラな都会の間には、集落がまるごと関わる観光化されていない熊野神社式年大祭の経験は都会生活では味わえない貴重な体験となりました。

## **(2)町民文化祭**

末崎町民文化祭は、展示会場に多くの方が訪れ、DVD 上映や写真展示、写真ファイルをたくさんの方（3日間で約150名）にご覧になっていただきました。自分が舞っている七福神のDVD映像を何回も食い入るように見ている子供たちや家族や友達同士でビデオや写真を楽しんでいた姿が印象的です。しかし、誰がどんな趣旨で、こうした活動をして展示までしているのかはほとんど伝わってはいませんし、住民の方々にはまったく関心がないように思えました。町民文化祭の出展は3回目ですが、毎回、たくさんの方が寄られ、楽しんでいただいているのですが、よそ者の活動はここまで、ここから先は地域の方がたにシフトすることが賢明と感じました。

## **(3)記録映像上映会**

12月の熊野神社式年大祭 上映会の参加者は20名で期待していたほどの参加者になりませんでした。しかし、達成目標にしていた祭りを担った7つの祭り組の代表者や関係者の全員参加を実現し、DVD、写真ファイルの寄贈は計画通りできました。もちろんネットでも活動報告と一緒に映像公開しています。デジタル公民館活動は初参加という顔なじみでない方も多くこられました。写真は各祭り組を通じて写っている本人や家族に手渡される手筈にしましたので、直接参加していない多くの方にも喜んでいただけたのではないのでしょうか。リアルな公民館活動としてもデジタルな公民館活動としても、伝統行事を通じて地域の結束を高めることにコミットメントできたことは大きな成果と言えるのではないのでしょうか。

#### (4)主な課題と成果

##### ① 成果

- ・ 活動スタッフにとってはとてもいい体験ができた
- ・ 記録映像や写真に対する地域の方がたの関心が高く、喜ばれる活動となった
- ・ 地区自治会の方々にコンタクトするツールになった

##### ② 課題

- ・ 前日から現地入りして早朝から祭りに参加
- ・ 山車の引き手が少ない状況がでており、見学や情報発信だけでなく、祭りの担い手としての参加
- ・ 3年後のH31年10月の神坂熊野神社の式年大祭、H32年10月の中森熊野神社式年大祭の開催時、どういう形であれ参加、見学に訪れる

## 6. デジタル公民館の公式サイトや Facebook の運営

### (1) 公民館広報紙「館報まっさき」の充実

H28 年度の「館報まっさき」は毎月 20 日の発行後、数日以内にサイトに公開された。「館報まっさき」は、連載企画の「末崎の風土散策」、トップ記事の末崎町の地域情報、復興計画・復興事業の進捗状況、「デジタル公民館」活動の案内など全体的に充実した広報紙です。これがそのまま、「デジタル公民館まっさき」サイトのコンテンツとして反映され、全国に広くまっさきの状況を発信できました。これは公民館スタッフの努力の賜物です。

### (2) Facebook による地域情報の発信

「PC・ネットよろず相談」活動に参加し、Facebook に関心を持っていただいた方に積極的に Facebook 利用を働き掛けました。その結果、個人で Facebook を開設した方が約 30 名に達しました。これにより活動スタッフとのコミュニケーションや地域の方々同士のコミュニケーションが活性化しました。お互いのページを閲覧し合い、「いいね」のクリックやコメントを投稿することが増加しました。

個人が発信するまっさきの情報を転載、拡大するシェア機能を使って、デジタル公民館の公開 Facebook で広めたり、

メンバーだけの情報を共有するなど、個人のページとプロジェクトの Facebook が連携し、情報発信と交流が進みました。

### (3) 主な成果と課題

#### ① 成果

- ・ 人と人の繋がり、都会と地方の学び合いの実際が、サイトや Facebook で公開され、デジタル公民館の概要が全国に発信できている。その結果、岩手県庁から祭りの写真の提供依頼が来たり、地元紙から取材の問い合わせがあるなど、情報発信の成果が見られた。また、被災地の公民館として全国各地の情報発信に熱心な公民館と交流ができた。情報発信は貴重。

#### ② [課題]

- ・ 現在の「デジタル公民館まっさき」サイトは、活動報告に重きを置いた構成で作られている。そのため、メニューが多く、地域情報をこまめに発信するのに向いていない
- ・ サイトに投稿するには、投稿原稿の書き方などの文章作成、記事作成の練習やワードプレスの操作マニュアルに沿った練習が必要となる

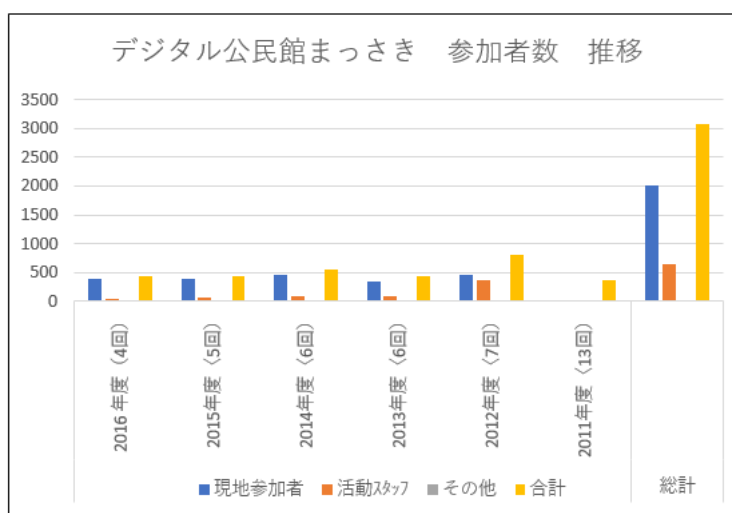
- ・ Web サーバーやメールサーバーの運営管理には引き続き専門技術者による対応が必要
- ・ Facebook のユーザにはそもそも Facebook を利用する意味、メリット、デメリット、リスク、注意事項、配慮事項などを理解し、わかまえてもらう学びの機会を置き去りにして、まずは楽しんでもらうことを優先してきてしまった。また、「友達申請」の依頼や承諾、投稿する記事の公開範囲の設定、誰でも見られる「公開」、友達だけに見られる「友達」、自分だけしか見られない「自分」などの基本的な機能の学習も Facebook をより楽しむうえで欠かせない。活動スタッフのネットによる相談アドバイスも活用したい。

## 7. 6年間の参加者数の推移

### (1) 6年間の活動で約3,000名が参加

各年度の活動とも現地参加者は400名前後で推移しています。6年間でのべ約3,000名が参加しました。2016年度で活動が終了することについても、地元からは惜しむ声が聞こえています。しかし、このまま同じ形態で同じ活動を続けていくのは困難です。地域の方々も都会の活動スタッフも変化を受け入れて、柔軟に対応していくこと、あり得べき将来の姿を創造し、そこから今、はじめなければならない活動へとソフトランディングすることが求められていると考えています。よそ者主導から地域主導へ、ローカルからグローバルへ・・・都会と地方の学び合いのプラットフォーム「デジタル公民館まっさき」について、一度築いた繋がりを大切に、あせらずゆっくり取り組んでいきたいと思えます。

図表9. デジタル公民館まっさき 参加者数 推移



各年度の参加者総	現地参加者	活動スタッフ	その他	合計
2016年度 (4回)	386	44		430
2015年度 (5回)	382	64		446
2014年度 (6回)	456	84		540
2013年度 (6回)	348	82		430
2012年度 (7回)	451	364		815
2011年度 (13回)	※	※	※	358
総計	2004	637		3080

※2011年度は復興支援ITボランティア活動として358名  
 (学生187名、社会人171名)が現地活動の実績がある  
 \* 回数は現地団体定期活動の実施回数 \* その他は現地参加者に含む



## (2) デジタル公民館活動のイメージ

いままでの活動を振りかかって、霞が関ナレッジスクエアや活動スタッフや、末崎地区公民館、末崎町民などまっさきの方々にとって、デジタル公民館はどんなイメージなのか以下の図のように整理してみました。

### ① 都会と地方の学びあいによる人づくり・地域づくりのプラットフォーム

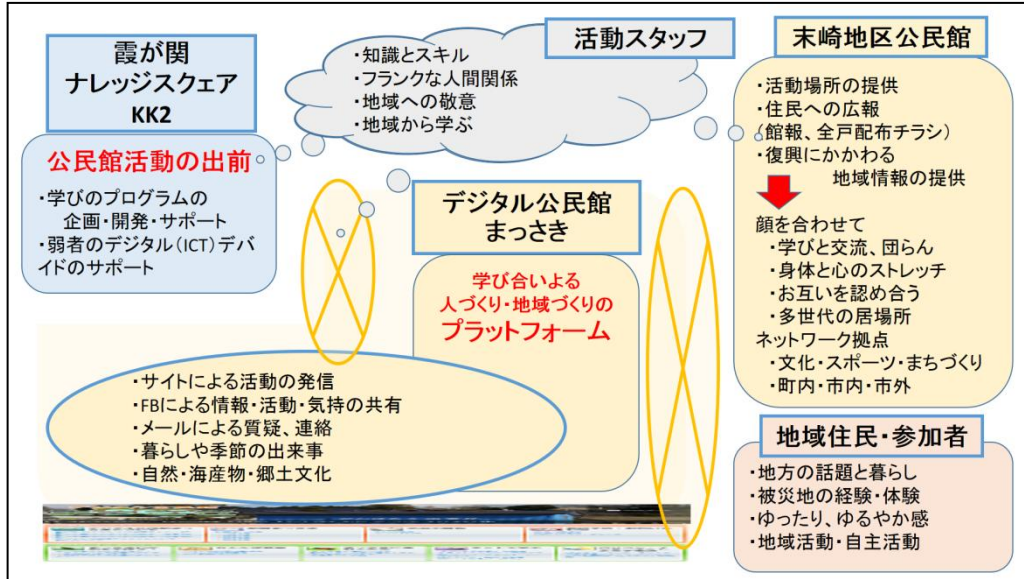


図 10. 2012 年度～2016 年度のデジタル公民館のイメージ

### ② KK<sup>2</sup>・活動スタッフが得られるもの

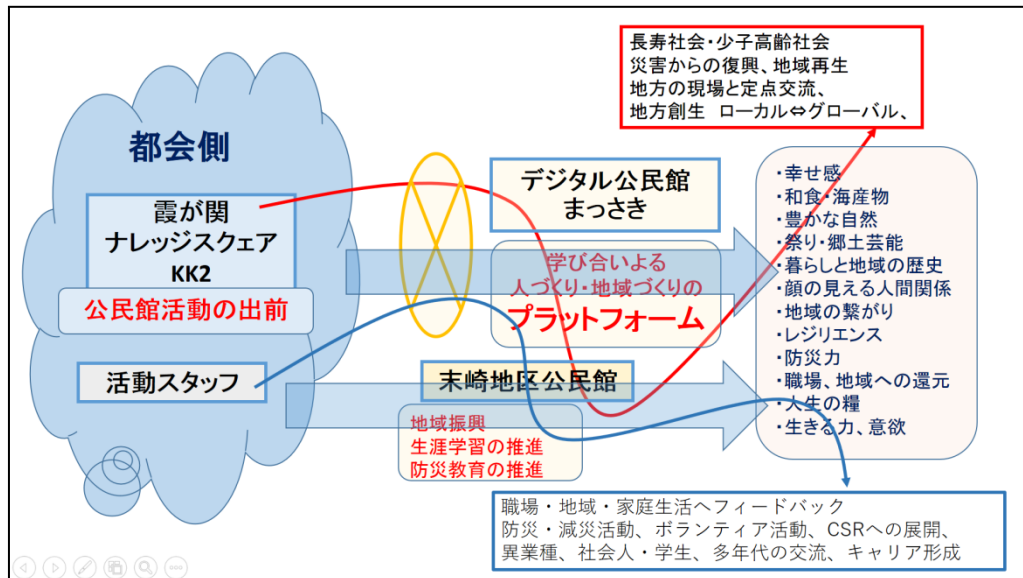


図 11. 都会側から見たデジタル公民館のイメージ

③ 末崎地区公民館・地域住民が生み出すもの

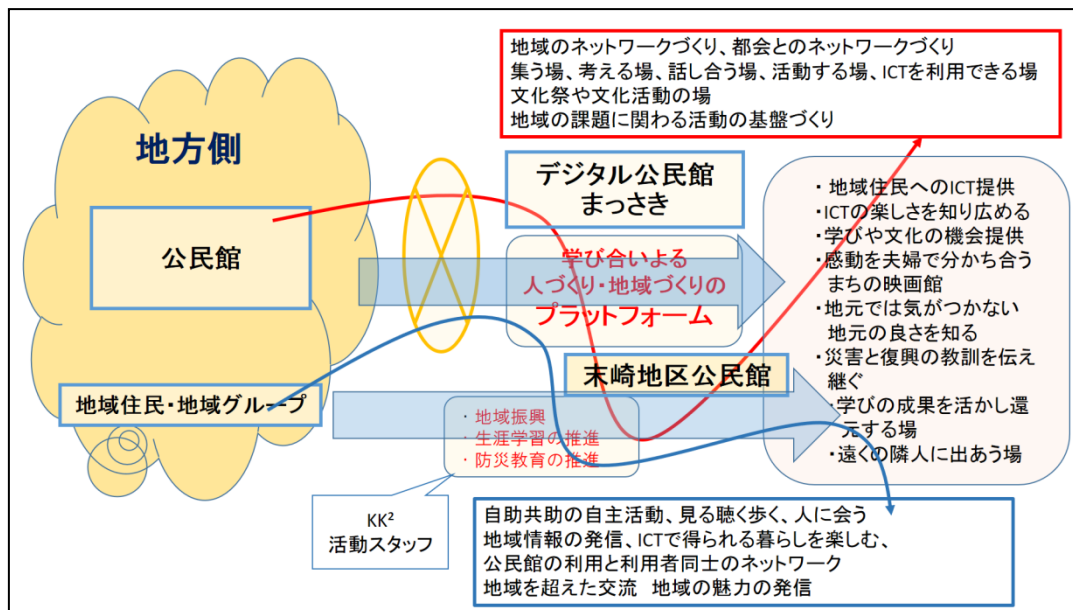


図 12. 地元から見たデジタル公民館のイメージ

この5年間の「デジタル公民館まっさき活動」は、“日常できていなければ非日常時にはできない”とする東日本大震災の末崎町の人びとの自助共助・地域の支え合いの体験・教訓の学び合いの場であり、都会と地方で暮らす、遠い他人同士が定期的な現地活動とネットによる交流を通じて共に学びあい、ゆるくつながったかなり稀な活動だったように思います。しかし、これまでは、どちらかというとも都会側主導の地方を支援する側面が強い活動でした。これからは地方の方々がより自律した活動として継続し、都会からそれを後押しする、連携し、引き続き学び合いさせていただく方向が期待されます。

## 第4章 「デジタル公民館まっさき」活動のこれから

### 1. 現地参加者グループの意向と公民館の取りまとめ

12月11日の意見交換会の場で、KK<sup>2</sup>から現地参加者側に、次年度については現地からの要請を受けてKK<sup>2</sup>は協力する、については3月6日に一般財団法人としてのH29年度の事業計画・収支予算計画を諮り承認を得る理事会があるので、2月上旬までに活動計画と具体的な要請をまとめて欲しい、と伝えました。これをうけて「PC・ネットよろず相談」参加グループ、竹とんぼグループでは、次年度の活動について個別や共同で話し合いを持ち、公民館がそれらを集約する形で、要請としてまとめ、1月31日、公民館が主幹する「デジタル公民館運営協議会」の発足を検討、2月3日KK<sup>2</sup>との話し合いの場を持ちました。以下にこの一連の経緯と内容を整理しました。

#### (1) 「PC・ネットよろず相談」参加者たちの声

(田中慶裕さんの1月28日FBより)

今日(2017年1月28日(土))、末崎地区公民館「ふるさとセンター」にて「デジタル公民館まっさき」のこれからを考えるための意見交換会を開きました。意見交換会には11人が出席。

①「デジタル公民館まっさき」では、これまでに様々な活動が行われてきましたが、継続的に参加していた末崎町の住民により、Facebookでの情報発信、パソコン教室などパソコンを使った活動をしてきたメンバー、②竹トンボ、門松、木工作品などの物作りに関する活動を行っていたメンバーと、2つの緩やかな集まりが生まれつつありました。

「居場所ハウス」で1月17日(火)に開いた集まりに参加したのは主にパソコンのメンバーだったため、今日の意見交換会には物作りのメンバーにも声をかけ、改めて「デジタル公民館まっさき」のこれからについて意見交換を行いました。

「デジタル公民館まっさき」の活動を行うにあたっては、末崎町民も参加する「デジタル公民館運営協議会」(運営協議会)が結成されています。(運営協議会と、今日の意見交換会の両方に参加しているメンバーもいますが)今日の意見交換会に参加したのは、パソコンや物作りという活動を実際に行ってきた実働部隊のメンバー。

今日の意見交換会で確認したことは、パソコンのメンバーも、物作りのメンバーも何らかの形で活動を継続したいという意志を持っていること、そのためには、末崎町民が主体となる必要があるということ。

来年度以降、運営協議会がどうなるかは1月31日の運営会議で話し合われることになっていますが、運営協議会という組織が継続されるなら、実働部隊がそこに参加して活動を継続する。逆に、「デジタル公民館まっさき」は一区切りついたということで運営協議会が解散するという判断がなされたなら、運営協議会の発展的解消として、実働部隊が活動を受け継ぐ。どのような体制になるのであれ、「パソコン」「物作り」「公民館」をキーワードとする活動を継続することを確認しました。

もう1つ確認したのは、これまで「デジタル公民館まっさき」の活動を行うにあたって、特に「ふるさとセンター」のネット環境維持のために、いくらぐらいの費用がかかっていることを調べることです。

また、来年度以降の活動の具体的な形としては、

- ・講師を頼んで、教科書通りに（パソコン・物作りを）教えてもらうという教室ではなく、集まったメンバーが、自分にわかることを互いに勉強し合い、教え合うという緩やかな集まりになればよい。集まったメンバーではどうしてもわからないことがあれば、霞ヶ関の方にも聞けるようになっていけばよい。
  - ・パソコンが故障した時に、ちょっと聞ける仲間が欲しい。そのために、メンバーで定期的に集まるのがよい。
  - ・物作り教室を開く際には、パソコンが得意なメンバーがチラシを作るなど、物作りのメンバーとパソコンのメンバーが共に活動することで、助け合うことができる。
- などの意見が出されました。

## **（2）末崎地区公民館として運営協議会を設け事業を主幹**

2月3日に公民館とKK<sup>2</sup>の話し合いには、公民館から新沼館長と菅野主事、KK<sup>2</sup>は久保田理事長、事務局丸山、地元の上部博子さんが出席、新沼館長より以下の説明がありました。

1. これからの活動のあり方について、として①「PC・ネットよろず相談」参加者の意向、②「竹とんぼ・ミニ門松づくり等」グループの意向、

## 2. 平成 29 年度の活動について

### ①「PC・ネットよろず相談」

課題だった相談役、講師役について、協力してもいいという末崎在住・出身の若者 2 名が発掘され、仕事（某電気店勤務）が休日の昼間のうち、月 1 回ふるさとセンター 2 階会議室を利用した活動日とする方向で詰めている。

### ②竹とんぼグループ

ー昨年、昨年同様、8月に夏休みものづくり教室（会場：居場所ハウス）、12月にミニ門松づくり（会場：ふるさとセンター）を開催する。末崎のイベントとして住民の間にも定着してきており、期待されている。グループの会費は 500 円/年間、参加費は 500 円から 600 円。グループ例会は年 2 回程度、竹とんぼ講師の認定は指導を 2 回以上やれば認定する。認定料は 2,000 円（どこ竹@武蔵野三鷹）

### ③その他

講演会は末崎町振興会の事業とも連携して地域の課題に関するもの、映写会は子供向け、大人向けに分けて実施したい。作品は市や県の視聴覚ライブラリーから借用する。

### ④運営協議会設置

「PC・ネットよろず相談」活動を自前で継続するうえでふるさとセンターのネット環境と経費の実情について事務局より 28 年度「デジタル公民館まっさき」の収支予算書をもとに経費の実際を説明。久保田理事長からは経費負担先は別（行政・公民館・その他など）として、29 年度に向け 3 案を説明。そのうち「年間経費約 11 万円（税別、光回線料、インターネットプロバイダ料、web サーバー料、無線 LAN システム無料サービス）を検討してはどうか提案。菅野主事からは次年度の公民館の事業予算として計上し、4月に行われる公民館運営委員会総会に諮る、自前の予算執行が年度当初からずれるのでその間のつなぎは協力していただき、予算承認後は公民館が経費を負担することで合意を見た。

また、KK<sup>2</sup> との話し合いを前に行われた 1 月 31 日の公民館と旧運営協議会メンバーと PC・ネットよろず相談参加者らによる会議では、公民館として予算も組んで事業に取り組むにあたって、29 年度船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会を設け、地元 11 名程度、KK<sup>2</sup> 側 4 名程度とする委員案の説明がありました。

## H29 年度大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会委員(案)敬称略

	氏名	所属
代表	新沼 眞作	末崎地区公民館 館長
事務局	菅野 一	末崎地区公民館 主事
	近藤 均	前末崎地区公民館 館長/NPO 法人居場所創造プロジェクト 理事長
	大和田 東江	碓石地区復興まちづくり協議会 会長
	細川 武人	末崎町振興会 会長
	大和田 東江	碓石地区復興まちづくり協議会 会長
	鈴木 軍平	NPO 法人居場所創造プロジェクト 理事/ハネウエル居場所ハウス 館長
	菊地 則子	前 末崎町更生保護女性の会 会長/ふれあいキッズデー企画委員
	熊谷 君子	NPO 法人居場所創造プロジェクト 監事/ふれあいキッズデー企画委員
	村上 正吉	どこ竹@武蔵野三鷹まっさきグループ代表
	小松 陽市	PC・ネットよろず相談世話役
	菅原 光幸	大船渡市消防団第4分団 団長
	田中 純一(予定)	一社 ビル減災研究所 代表理事
	葛西 章広(予定)	一財 高度映像情報センター
	久保田 了司(予定)	一財 高度映像情報センター理事長/霞が関ナレッジスクエア 代表
	丸山 修(予定)	霞が関ナレッジスクエア 事務局

以上を踏まえて KK<sup>2</sup> では 29 年度事業計画の作成に着手、まっさきの方々の自律的な活動を、前から引っ張るのではなく背中を押すこと、引き続き学びや交流を続けさせていただく方向で事業計画書の検討に入りました。

### (3) パソコングループ 29 年度活動を具体化

末崎地区公民館として H29 年度の事業計画、高速通信回線の通信料を含めた収支予算計画をまとめ、公民館運営審議会に諮るうえで、具体的な活動計画が必要とのことから、3月5日 パソコングループが打合せを行い、次のような計画をとりまとめた。

(以下、田中慶裕さんの3月6日 FB より)

先日(2017年3月5日)、ふるさとセンターにて「デジタル公民館まっさき」の IT グループのメンバーで集まり、来年度の活動計画について話し合いま

した。

※取り組む内容は必ずしもパソコン教室に限定されませんが、ここでは仮に IT グループと呼ぶこととします。

IT グループのメンバーによる話し合いで、来年度取り組みたい内容がいくつか浮かび上がってきました。

#### (1) これからパソコンを始めたい人を対象とする教室

末崎町の情報を発信するためにも、活動するメンバーを増やすためにも、パソコンが使える人を増やすことが必要になります。

話し合いに参加されたある方が、次のような話をされました。「自分が昔参加していたパソコン教室では、わざわざパソコンを購入して参加した人もいた。けれど、文字を入力する方法もわからない状態だったので、教室の内容についていけず、結局やめてしまった」と。来年度取り組む教室では、このようにパソコンをこれから始めたいという人にこそ参加してもらいたいねという話。講師は、現在「ふるさとセンター」でパソコン教室を主催されてきた方の他、これまで「デジタル公民館まっさき」のパソコン教室に参加していた人もわかる範囲で教えるというように、お茶を飲みながら、みなで教え合うというスタイルの教室となります。

「ふるさとセンター」の部屋を予約したり、参加者を公民館報（館報まっさき）で募集したりする必要から、教室は毎月第 2 日曜の 13 時半～15 時半（ただし、8 月のみ第 1 日曜）に開催することを決定しました。

教室の内容は、参加される方によりますが、パソコンの起動方法、文字入力の仕方といった基本から、Word/Excel の使い方、年賀状の作り方、(PowerPoint による) チラシの使い方、インターネットの使い方などがあげられています。

#### (2) パソコンの困り事相談

ある程度パソコンが使えるようになった人がわからないことを聞いたり、パソコンの調子が悪い時に相談したりすることを目的として開催するもの。

パソコンに詳しい方、パソコンに関する仕事をされている方に協力していただいて開催する予定です。日程は協力していただける方と調整する必要があるため、現時点では未定ですが、(1) とは別の日を定めて開催することとなります。

#### (3) 取材のイロハを学ぶ

今日の話合いで、「Facebook で情報発信しようとする時、どのように書いていいか迷うことがある。これから、多くの人々が末崎町の情報を発信するために

は、取材のコツ、取材したものをまとめるコツを聞いてみたい」という意見がありました。この部分については、以前、新聞記者をされていた方がメンバーになっていますので、その方から取材のイロハを教えてもらう機会も作りたいたいという話となりました。

その方からは、5W1Hを書く、取材の時は余分だと思うくらいメモをとる、その場の情景を書く、参加している人の声も聞いておく、「参加」と「出席」の使い分け、「開く」と「開催」の使い分けなどのコツがあるという話がありました。

#### (4) どこ竹への協力

どこ竹のメンバーが夏に「居場所ハウス」で予定している物作り教室、冬に「ふるさとセンター」で予定している門松作りについては、チラシの作成、当日のサポート、取材などの形で協力する。

この他、公民館の役員（でパソコンを使っていない人）にパソコン、インターネットの使い方を伝えたり、「ふるさとセンター」に常駐している方に Facebook の使い方を伝えたりすることで、公民館活動をサポートできるなどの意見も出されました。

なお、(1) であげたパソコン教室の参加者は、3月20日に発行される公民官報（館報まっさき）にて募集予定です。



## 2. 要請に応える KK<sup>2</sup>の事業計画と現地の年間計画

### (1) 一般財団法人高度映像情報センターの事業計画

一般財団法人高度映像情報センター（AVCC）では、2月3日の末崎地区公民館との話し合いを受けて、3月6日の理事会において、下記内容でH29年度の「デジタル公民館まっさき」活動の事業計画を説明、承認を得ました。

#### － 1 地域の自律した活動を後押しする 「デジタル公民館まっさき」活動

－ 3.11 東日本大震災で大きな被害を被った岩手県気仙地方を継続的に訪問し、都会から出向いたよそ者が地域住民の方々をまきこみ進めてきた「デジタル公民館まっさき」活動をきっかけに、大船渡市末崎町では、地区公民館(ふるさとセンター)をベースとした、住民の方々自身による自律したコミュニティ活動が芽生えつつあります。

今年度は、公民館で開催される地域の自律したコミュニティ活動を見守り、後押しをするというスタンスで、コミュニティ活動への参加要請があれば、それに出来るだけお応えする形で活動します。

具体的には、

- ・ネットワーク環境(光回線、Wi-Fi 環境、Web サーバ、メールサーバ、TV 会議)を維持継続する。
- ・ネットワーク経費を公民館事業費として予算獲得までの間は KK<sup>2</sup> が 負担する。
- ・パソコン・インターネット学習会(仮称)への参加要請には可能な限り応える。
- ・どこ竹まっさき竹とんぼグループ(仮称)への参加要請には可能な限り応える。
- ・公民館事業、コミュニティ活動への参加要請には可能な限り応える。
- ・KK<sup>2</sup> は、「共同体感覚」の育成を目的としコミュニティ活動への参加者を募ります。

## (2) Digital (IT) 公民館 まっさき 基本毎月第2日曜日で定例化

末崎地区公民館の事業計画・収支予算計画に反映するため、パソコングループでは3月22日末崎地区公民館で会議を行い、以下のような年間事業計画を策定した。(3月23日 小松陽市さんより)

末崎地区公民館では、H29年度4月9日から、これからパソコンを始めたい人を対象とする教室を開きます。老若男女お気軽にお出で下さい。

場所 ふるセン2階会議室

日時 毎月第2日曜日(但し8月は第1日曜日) 午後1時30分～午後5時頃まで

午後3時頃お茶っ子タイムを設け和気あいあいに実施します。お茶っ子代は全員で(300円ぐらい)負担予定です。

講習料 不要です

講師 梅澤直様 田中康裕様 後藤友宏様、その他、昨年までふるセンで「パソコン教室」に参加していた人でわかる範囲内で教えます。初心者同士頑張ってみましょう。

### パソコン教室活動予定表

4月9日 パソコン各部名称と基本操作

5月14日 初歩①ワード、エクセル、四則(+、-、÷、×)

6月11日 初歩②ワード、エクセル、表計算

7月9日 簡単な文章作成ワード、エクセル、広告チラシ作成

8月8日 竹とんぼグループと共同

夏休み工作づくり、文書作成、エクセル、グラフ作成

9月10日 ワード、エクセル、家計簿

10月8日 家計簿、年賀状

11月12日 年賀状

12月10日 竹とんぼグループと共同 ミニ門松づくり

1月14日 パソコン応用編

2月11日 パソコン応用編

3月12日 パソコン応用編

\*講師は参加者等の都合に依り変更することがあります

### 3. 住民を主体とする活動のプラットフォームのイメージ

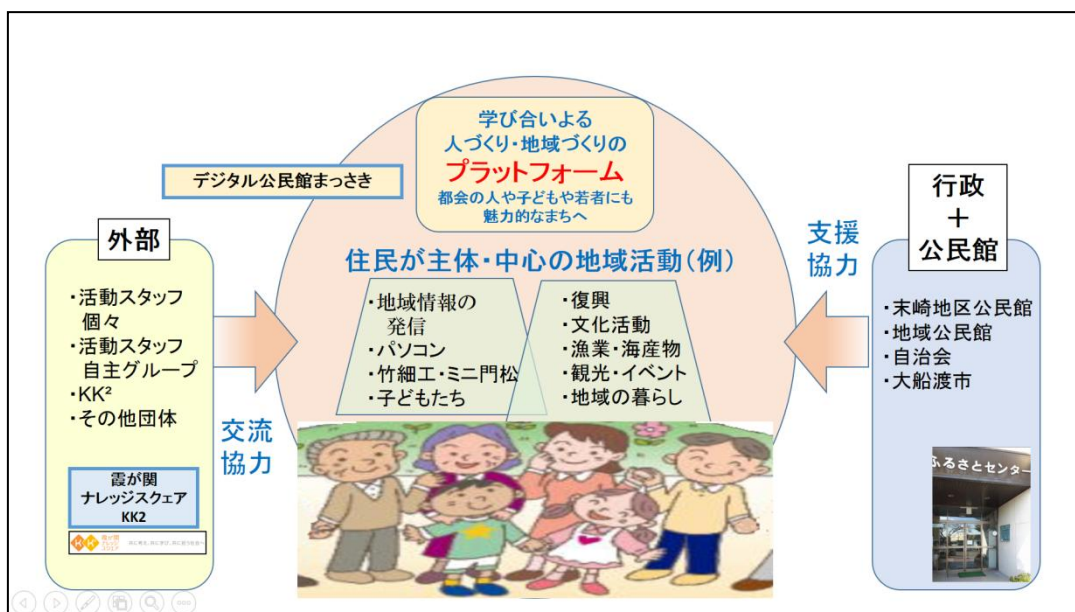


図 13. 活動のプラットフォーム

以上の経緯から地域コミュニティづくりの参考に、活動の主体を住民とするデジタル公民館のイメージを作成してみました。2017年4月以降は、末崎町の住民が自分たちのしたいことや地域の課題を自助共助で行うことを中心に据え、公民館や行政、外部団体がそれに協力する、サポートする、というスキームに移行します。デジタル公民館活動に関わった活動スタッフもパソコンや竹とんぼグループの活動への関わりを足場に、公民館や小中学校、居場所ハウス、碁石地区、細浦地区、熊野神社、麟祥寺、漁業団体などのさまざまなイベントや行事で交流することが考えられます。そのためにもまっさきの方々には、Facebook等を利用して地域情報をどしどし発信して欲しいところです。

#### 4. ふるさとセンターのネットワーク構成

2月3日の公民館とKK<sup>2</sup>の打合せでは、ふるさとセンターのネットワーク構成について、現状と次年度のKK<sup>2</sup>案を説明し、下記のプランで合意しました。

- ・ 参加者グループは日時を定め、毎月1回ふるさとセンターで定例自主活動をする
- ・ 公民館は住民グループの要望に応じて、公民館の事業費に高速通信回線費用を盛り込み、4月の公民館運営委員会総会に諮ることとする。ここで承認されれば、5月からの費用は公民館事業費より拠出する。
- ・ KK<sup>2</sup>は4月いっぱい回線費用を負担する。
- ・ 公民館が負担する費用は、高速通信回線費用・インターネットプロバイダ費用が年額約94,000円、Webサーバ費用が年額約21,000円、合計約115,000円と見込まれる。
- ・ その他の費用、1階事務室、1階廊下、2階会議室の無線LAN機器、1階廊下の住民利用パソコンは、引き続きKK<sup>2</sup>からの無償提供とする。

H29年度ふるさとセンターのネットワーク構成図を以下に示します。

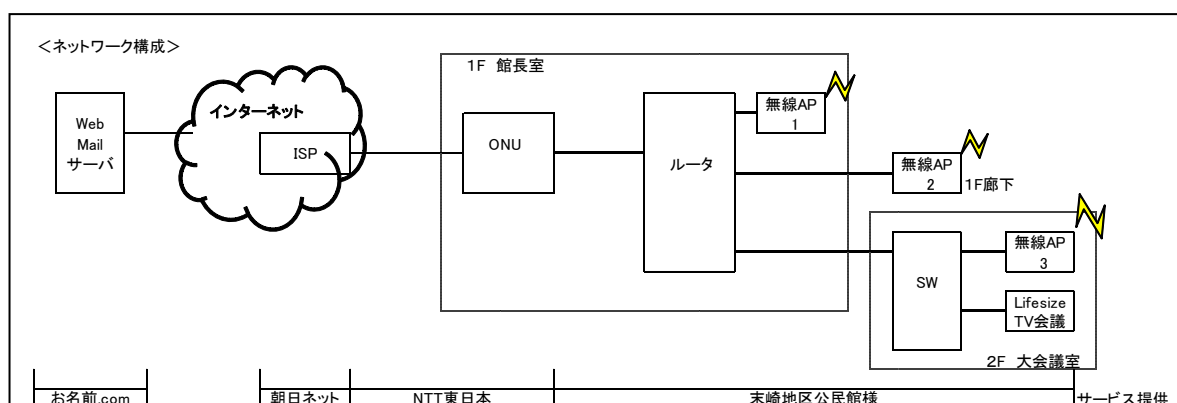


図 14. H29 年度ふるさとセンターのネットワーク構成図

以上により、従来通り2階会議室でのインターネット利用、ハイビジョンテレビ会議利用、1階廊下のパソコン・インターネット利用、1階事務室の職員パソコンでのインターネット利用が引き続き可能となります。

## 5. PC・ネットよろず相談グループの自主活動に向けて

参加者有志を中心にした自助共助による自立活動として「PC・ネットよろず相談」を継続するには、公民館の協力はもちろん、KK<sup>2</sup>で具体化できなかった地域在住者（末崎町在住で市内に勤務している方）もしくは在勤（他自治体から大船渡市に出向している方）でICTスキルのある人、中学生のパソコンクラブ等の協力を得ること、協力者も含めて無理ない活動を計画することが検討課題です。お茶、生け花、舞踊のような伝統文化のグループとは異なり、リーダーづくり、リーダーシップはなかなか手強いので、みんなで盛り上げるフォローシップが求められます。

これまで交流してきた活動スタッフも都会から協力・支援できるよう、あるいは駆けつけられるよう、活動スケジュールはフェイスブックやメールによる共有が望まれます。

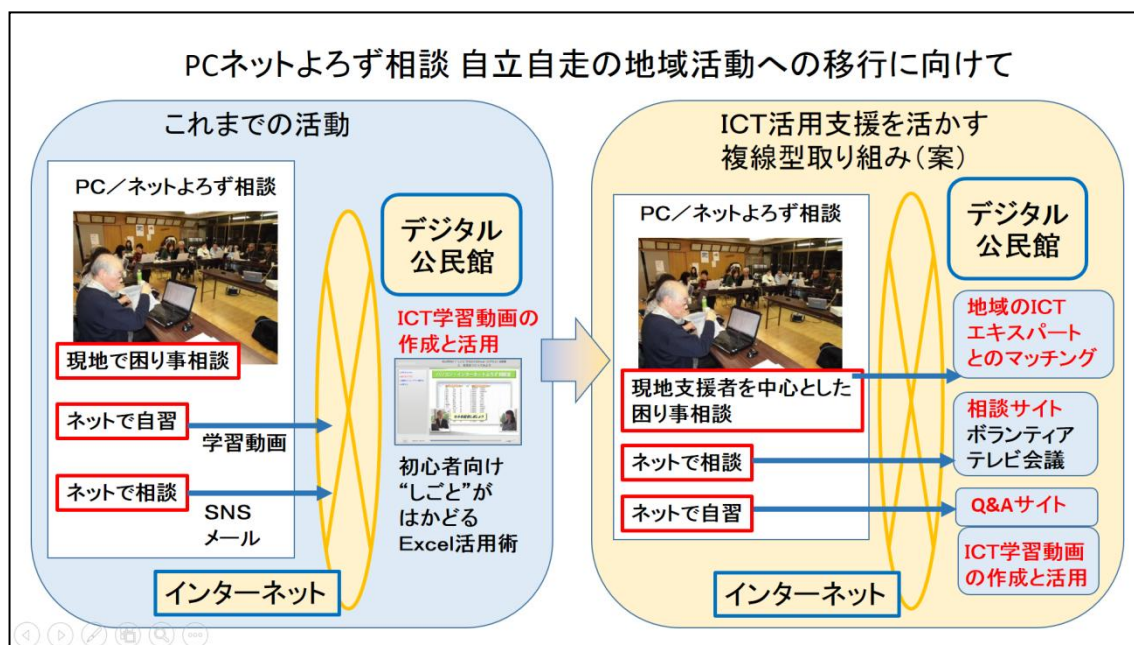


図 15. PC・ネットよろず相談 自立自走の活動への移行案のイメージ

## 6. パソコン教室、PC・ネットよろず相談のカルテ

これまで運用してきたカルテは、次のようなメリットがありました。

- ・ 個々の相談者の相談履歴がわかる
- ・ 別のスタッフが相談に応じる際に、相談者の相談履歴や IT スキルを把握することができる
- ・ 相談者のレベルアップをある程度定量的にあきらかにすることができる
- ・ 相談者が自己のスキルアップの過程を振り返ることができる

一方、次のような反省点も明らかです。

- ・ 記載事項が多く、スタッフの負担になった
- ・ 相談に応じながらカルテを書くことができなかった
- ・ スキルレベルの評価はスタッフにより異なり、レベルアップの定量化は期待通りにはできなかった

これらを踏まえるとともに、新たな活動に移行するにあたり、従来よろず相談的な個別学習用と、初心者対象にテーマを決めて行うパソコン教室用の2種類のカルテを作成し、利活用していくことが本来は求められると思います。しかし、実際の運用では、管理の煩雑さ、運用の混乱を避けるため、2種類のカルテを統一し、次の方針で簡易に記載できるシンプルなカルテを利活用していくとよいでしょう。

- ・ 個別相談用、パソコン教室用の2種類のカルテを一つの様式に統一して作成する
- ・ カルテの記載事項はできるだけ少なくし、スタッフ、参加者の負担にならないようにする
- ・ カルテは1人、1回、1枚とする
- ・ 各回のカルテは参加者個人ごとに束ねて管理する
- ・ これまでのカルテも個人ごとに新カルテと共に管理する
- ・ 相談会開催時に参加者の過去のカルテが見られるようにする
- ・ 主催者は参加者の求めに応じ、カルテのコピーを提供する
- ・ 両面印刷し、裏面にアンケートを印刷する

具体的には、  
 下の様式のカルテを提案します。

PCネットよろず相談 参加者カルテ <input type="checkbox"/> PC教室 <input type="checkbox"/> 個別相談 ( / )				
氏名		性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	連絡先
日時	20 年 月 日 ( ) : ~ :			
・受講内容 (相談内容) ・対処法 ・結果				
・課題				
・受講者感想				
・アドバイザー ・コメント ・その他				
(アドバイザー氏名: )				

また、このカルテの記入例を以下に示します。カルテの記入方法はおおむね以下の通りです。

- ① 運営側が事前に日時とその回のテーマを記載したカルテを用意しておく  
(記入例の赤字部分)
- ② カルテの裏面にはアンケートを用意する
- ③ 教室あるいは個別相談会終了前に配布し、アンケートとカルテの記載を参加者に依頼する
- ④ 参加者が記入例の赤字部分を記載する
- ⑤ 教室の担当講師あるいは個別相談のアドバイザーがカルテ&アンケートを回収し、参加者の記載内容を確認する
- ⑥ 教室の担当講師あるいは個別相談のアドバイザーがコメントを記載し、所定の欄に署名する(緑字部分)
- ⑦ 参加者は後日、あるいは次回参加時に公民館でカルテのコピーを入手できる

PCネットよろず相談 参加者カルテ		■PC教室 □個別相談		( / )	
氏名	小松陽市	性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	連絡先	
日時	2017年 4月 9日(日)		13:30	~	17:00
・受講内容 (相談内容)	・パソコン各都名称と基本操作 ・説明 ・基本操作のわからない点は、周囲の参加者に尋ねたり、先生に質問して、おおむね理解できた。				
・対処法					
・結果					
・課題	・次回まで忘れないようにしたい。 ・そのためにも、家で使いたい。 ・ワードなどを使えると会合の時に資料を作りやすい。次回は非マスターしたい。				
・受講者感想	・途中にお茶っこタイムをはさみながら和気あいあいにパソコンの学習ができた。				
・アドバイザー ・コメント ・その他	熱心に取り組んでいらした。何度か参加できれば、自宅でも使えるようになるので、がんばってほしい。				
(アドバイザー氏名: 田中 康裕)					



## 資料1 末崎町参加者・活動スタッフから寄せられたコメント(敬称略)

### 《末崎町参加者》

#### ➤ 小松 典子

大震災後、関東から毎月週末に IT を教えに来てくれるグループがあった。初めは、「一体何者だろう」と不信感が大きかった。が、回数を重ねるごとにメンバーとも顔なじみになった。そのグループが、霞が関にある、民設民営の公民館活動を主体とするものだと知るのに数年かかった。

初めは、そのグループが主体的に、私達にパソコンや携帯電話等の機械の使い方、フェイスブックの扱い方、エクセルやワードの使い方を教えてくれた。現在は隔月となり、地元民が能動的に活動しつつある。その活動もとうとう終了してしまった。

IT にお世話になり、私は、【デジカメの写真を PC への取り組み方・フェイスブック・ネットでの買い物・エクセル・ワード・一太郎の扱い方・ドロップボックスの使い方・タブレットの使い方】等々を教わった。メンバー達とも、津波の事や、身近に起きた話(時に悩み相談)等々、いろんな話をしたりフレッシュした。震災でふさぐ気分には余裕を頂いてきた。震災があってできたこのご縁を、今後とも大切にしていきたい。

ボランティアの皆様、これからも「まっさき」に遊びにいらしてください。夏は、穴通し磯を小型の船で潜ってください。自然のジェットコースターです。又、碁石の食堂「岬」の磯ラーメンは、今年の「大船渡グルメグランプリ」6位に選ばれました。自然に恵まれた「まっさき」をこれからもよろしく願います！

#### ➤ 菊池 則子

H28 年度「デジタル公民館まっさき」活動が克明

に記録された報告書(案)を読み、改めてご支援、ご指導を頂きながら、前を向いて生きられた災後であったと心から感謝申し上げます。

H25年7月から殆ど毎回パソコンよろず相談でご指導を頂き、お陰様で現在、フェイスブックを楽しみ、居場所ハウスではチラシ作りを担当しています。また IC レコーダの使用法を教わったことにより、担っている毎月の支部短歌会の本部への報告がスムーズにいくようになりました。単にパソコンの知識を得るだけでなく、マンツーマンのご指導を頂いたことが大きく、またキッズデーや他の行事への参加を通して、支え合うことの大切さ、共に生きることの大切さ、未来へ繋げることの大切さを心に刻むことができました。

今後も KK<sup>2</sup>、活動スタッフの皆様の変わらぬご指導とご厚誼を切望しながら、引き続き当グループの一員として大好きな末崎町の発信の力になりたいと思います。

#### ➤ 上部 博子

皆さんが、わざわざ遠くから、時間をつくり来ていただいているのに、なかなか参加することができません。早朝視察で碁石の穴通しにはじめて船でぐりました。地元に住んでいてもなかなか経験できません。PC・ネットよろず相談は、ワード・エクセルは多少わかりますが、インターネット等は、あまり良くわかりませんので、教えてもらいに時々いってました。ネット関係は教えてくれる人はあまりいないので、困ったなーと思っています。これからも、よろしく願います。

➤ **村上 正吉**

東日本大震災から6年が過ぎました。この間、霞が関ナレッジスクエアと活動スタッフの皆さまに支援事業をしていただき、当竹とんぼグループもようやく自主活動ができそうな状況になりましたこと、感謝・感謝ただ感謝です。

おかげさまをもちましてメンバーも8名となりましたが、まだまだ課題は多くあります。今後の活動を広げるべく新しいメンバーの育成〈父親・母親世代〉や小学校や地域子ども会などへの働きかけによる出前教室の開催など・・・また、定着しつつある夏休み親子教室(8月)、町民文化祭(11月)への参加、ミニ門松作成教室(12月)等の継続活動は実施してまいる所存です。

すでに2月22日には28年度の活動報告と29年度の活動計画(案)について例会を開催し、確認をしたところでございます。具体的には、その都度、メンバー、関係者と相談をしながら進めることにしました。また、出前講座の要望もありますので、これにはできるだけ応えたいと思いますし、販売したいという話もきており思案中です。

デジタル公民館としての支援事業はなくなったとしても今後も霞が関ナレッジスクエアや、どこ竹@武蔵野三鷹、活動スタッフの皆さまにはなにかとご指導をいただければ幸いですので末永いお付き合いのほどお願い申し上げます。新づくりも楽しみますのでご期待ください。

➤ **小松 陽市**

PCの電源がどこにあるかも知らず、ふるセン2階会議室に赴き初歩から教えていただき今ではFBも出来るようになりPCを大いに活用でき楽しんでおります。これも皆様のおかげと感謝致します。末崎の皆様にもPCをもっと普及し別世界に導きたいと思っております。KK<sup>2</sup>や活動スタッフの皆様は、末崎を時々思い出して頂き出来る限り末崎

を訪問される様、東北のチベットからお願い申し上げます。

《活動スタッフ》

➤ **岡田 直子**

2015年2月活動で初めて参加させていただきました。岩手県の地を踏むのは生まれて初めてでした。参加して実感したことは、大船渡市末崎町の皆さまの日本古来の人の優しさ、考え方といった素晴らしさでした。自分のことより人を慮る姿勢、思いやり、礼儀正しさ、などは日本人が昔から持つ素晴らしいDNAだと思いますが、最近失われつつあるところでもあります。末崎町の皆さまのように、かくありたいと思うところが多かったです。

私自身も今後、地域活性化のような仕事に微力を尽くしたいと思っておりますが、子どもの世代にももっとそういったマインドセットをしていてもらいたいと思っております。自分の子どもにも、もっと日本の様々な地域へ実際に行ってみて、その社会の課題解決に現地の人々と協働するような経験をしてもらいたいです。国連でもSDGsが採択され、持続可能な社会のために、一人ひとりが、何が出来るのかをもっと、自分ごととして考えることが求められてくると思います。どこにどんな社会の課題があるのか、自分は何が出来るのか、それを考えられる次世代の人財育成に少しでも関わられたらうれしいです。

非常に学びの多い機会を与えていただき、末崎町のみなさま、そして何よりKK<sup>2</sup>のみなさまに感謝の気持ちしかございません。これからも、私にできる何かが求められれば、精一杯期待に応えていきたいです。イベントなどございましたら、参加させてください。

➤ **古賀 久恵**

1. 復興支援ITボランティアからの発展

「復興支援ITボランティア」から発展した活動が「まっさき活動」です。発災当初、避難所において「情報（検索）サービス」を中心にITを使った情報ボランティア活動を行っていた「復興支援ITボランティア活動」が原点にあります。避難所、仮設住宅集会所と復興フェーズの変化とともに活動場所とニーズも変わり、復興の経過とともに他地域での「復興支援ITボランティア」の活動が減少している中で、大船渡まっさき地域での活動が現在も継続できているのは、KK<sup>2</sup>のみなさまが「まっさき活動」として引き継いでくださったからです。学生中心の被災地支援ボランティア活動から生涯学習の視点を加えた活動へと発展したのだと思います。

## 2. 「まっさき活動」の経験からの発展

KK<sup>2</sup>の「まっさき活動」に移行してから、PC講座は大きく変わりました。東京から参加した専門家や経験豊富な社会人の知見を反映し、PCの指導方法なども試行錯誤を繰り返し「PCよろず相談」というスタイルをとるようになりました。その結果、地元の参加者の方々のニーズに細かく対応できるようになったと記憶しています。

「PCよろず相談」の手法を広める活動：

2015年に宮城県亘理郡山元町のPCサークル活動の活性化を支援する際に、「まっさき活動」で得た「よろず相談」の手法を講座運営担当者に紹介し、導入を勧めました。導入にあたっては、クリアしなければならない3点がありました。

### ・現場（指導担当者）の意識改革

PC講座の指導を担当するスタッフに「まっさき活動」の現場（岩手県大船渡市）へ参加してもらい、実際の効果を体験してもらいました。

指導者（PC講師）に、PCスキルを「教える」から「コミュニケーションツール」としてのPC利用へと意識を変えていただくことから始めました。

・前任組織（PC講座を前年度主催していた団体）の理解を得る

後日、その講座を前年度に担当していた外の支援団体（石巻PC講座）の責任者にも「まっさき活動」へ参加してもらうことで、スクール形式ではない個別指導の有効性を理解していただきました。

### ・人員の確保

「よろず相談」（ほぼマンツーマンスタイル）を導入するには、人員の確保が必要でした。

そこで「まっさき活動」をお手本にして社会人ボランティアの活用を行いました。山元町のPCサークルでも他団体（NGO）のボランティアに参加している社会人たちの空き時間（約2時間）にPCボランティアとして参加していただきました。参加したボランティアは、本来の目的以外でも地元の方とのふれあいの時間が持てて満足度が高かったようです。

上記①②の両ケースは、「まっさき活動」への参加をご快諾いただいたKK<sup>2</sup>の皆様のご理解あつてのことです。感謝申し上げます。

## 3. さらなる発展

福島県相馬市にある心のケアを中心に活動している施設における精神障害を持つ方々へのデイサービス活動にも応用しました。従来のパソコン教室のマニュアルに捉われない方法、教えるのではなく、PCを通じた双方向コミュニケーション（教室形式ではなく、各自のスキルや興味に合わせた活動）は、精神障害の方々の活動に非常に有効でした。「まっさき活動」での経験を他の地域での活動にたくさん生かすことができました。

## 4. 他の活動と違って「まっさき活動」の良かったこと

「まっさきに学ぶ」が入ったことで生涯学習の一環となった点。社会人ボランティアと地元の利用者さんが双方向で学べる活動という点が他の活

動との大きな違いだと思います。

#### 5. 課題

「まっさき活動」を通じて知り合った人々と、活動以外でも交流が生じているのは大変素晴らしいことである反面、まっさきの住民の方々に負担（迷惑）をかけている事象も生じていることが残念です。

#### ➤ 秋田 義一

「デジタル～」という名称に反して、活動自体は人と人のふれあいが中心の素晴らしい活動だと思った。この思いは、初めて参加したときから、今まで一度も変わることはない。都会からやってきた者と東日本大震災を体験した方々との心と心のコミュニケーション。一方的な支援ではなく、人と人とのかかわりの中でお互いに学ぼうという姿勢。誰と関わるときもこうした姿勢が必要だということを学べる素晴らしい活動だった。

まっさきの活動に参加して以降、都会でも主として技術士会のボランティア活動に精を出すようになった。おかげで、やけに忙しい。今後については、まっさきの今後の活動は意識しながら、かかわっていききたい。幸いにも技術士会内部でも、末崎周辺の支援活動を継続しているので、機会があれば技術士会の情報工学部会などを動かし、連携も視野に入れたい。

活動に参加させていただいて以降、活動のすばらしさに触れ、私の大切な仲間にも勧めてきた。幸いにも2人が呼びかけに応じてくれた。他にもまだまだ参加してほしい若手（30～40代）がいたので、少々残念だ。今後の地元主体の活動を見守りながら、そうした仲間を連れて訪問したい。

#### ➤ 関根 ハンナ

今年度も大変お世話になり、ありがとうございます。私は”よそ者”であることを忘れてしま

うほど、まっさきの方々やスタッフの方々のあたたかい人情に包まれ、帰属意識を持って活動に参加することができました。交通費や宿泊費などを援助していただき、大学生でありながらも継続して活動に参加できたことを本当に感謝しております。活動に参加する度に素敵な出会いや新たな学びがあり、人々の優しさに触れ、わたしはこの活動に参加できていることが自分の誇りになりました。

来年度からのデジタル公民館まっさきの活動は、より現地主体の体制になるということですが、ここまでスパッと切れてしまうのではなく、どのような形であれ関わり続けることができれば嬉しいと思っています。私はこれまでの感謝の気持ちを忘れずに、自分にできることを精一杯行うことで力になればいいなと思っています。

#### ➤ 津田 伸介

私の活動実績はH28年の10月と12月の2回で、奇しくも、5年間継続してきた「デジタル公民館まっさき活動」の中で、これまでの活動を振り返り、今後の活動を検討する大事な時期でした。そのような時間を末崎の方々やKK<sup>2</sup>の活動メンバーと共有できたことは、私にとって大変貴重な時間となりました。活動自体はもちろんのこと、人と人の繋がりがや伝統に触れること、復興から地方創生を考える機会など、実際に体験しなければ得られないことばかりでした。

H29年になり間もなく、Facebookを通じて、地元の方々が「ふるセン」に集まり、今後の活動についての意見交換が行われたことを知りました。今後は地元の方々による自主的な活動が始まる見通しとのこと、嬉しいです。自主的な活動に勝るものはないと思っています。末崎には豊かな自然に心豊かな地元民がいます。私のような都会に住む者にとって、とても魅力的です。ぜひ、地域の

方々を巻き込んで情報発信してほしいと思います。もちろん、今後も協力できることはしていきたいと考えています。

参加した2回の活動期間中のことを振り返ると、地元の方々や一緒に参加した KK<sup>2</sup> 活動メンバーの皆さんに随分と助けられました。温かく出迎えて下さった末崎の皆さん、共に活動するうえでご指導して下さいました。KK<sup>2</sup> 活動メンバーの皆さんのお蔭で、楽しく活動することができました。感謝申し上げます。

#### ➤ 藤田 朋弘

末崎に初めて来たのは2012年3月でした。NPO事業サポートセンター主催の学生を中心とするチームに加わり、ふるさとセンターで活動しました。その時、地元の方で来られる方は、今とは異なるメンバーでした。最初に訪れた時に、久保田さん、丸山さんも一緒に活動し、公民館にネット環境がない事を悲観しておられたと記憶しています。

2012年度は先に述べた元気村等の活動が中心で、NPO事業サポートセンターとしての活動は2012年度で終結しました。

2013年度になり KK<sup>2</sup> としての活動がスタートして、末崎で年4回前後活動することになりました。当初は、ITボランティア中心の活動でスタートして、それから、活動の内容が、碁石地区の歴史、気仙地区の歴史、震災時の状況など広い範囲で勉強になる活動に変わりました。2013年度はふるさとセンターに寝袋で泊るといった活動をしながら、地元の方々との懇親会も持ちました。これで、末崎の方々と親睦を深めることになったのは確かです。実際、自分の住んでいる地域の深い歴史も知らないの、末崎・気仙地区の歴史を学ぶことができ、よかったです。

ITボランティアで最初に関わり始めた時に、

地元の方が穴通し磯の写真をを見せてくださいました。凄く綺麗なところで行って見たいと思いました。メンバーで早朝や夕方の空き時間に散策をしました。三陸海岸ならではのダイナミックな地形に、メンバー皆、感無量でした。来る毎に地元の方々とは打ち解け、冗談を話したり、美味しい食べ物等をご馳走になり、都会では味わえない食感に頬が落ちそうな位でした。

自身の故郷は広島ですが、末崎地区の暖かい心遣いは第二の故郷です。ここでできた関係は私が死ぬまで続けられればと考えています。ありがとうございました。

#### ➤ 本多 大典

私は2013年、2014年頃を中心に活動へ参加しておりました。私にとって東日本大震災の被災地に活動スタッフ（ボランティア）として関わる初めての経験でした。どのように振舞えば良いのか考え、少し緊張しながら初回に臨みました。そのような私にとって初参加の感想は、とても楽しいということでした。充実した時間となることは想定していましたが、楽しいというような感想を持つことは想定外でした。不謹慎と思われる懸念はあったものの、私はその後も楽しく活動することを心がけていました。改めて私が感じた楽しさとは何かを考えてみると、それは、事務局、活動スタッフ、被災地の皆さんの別無く、様々な背景を抱えた方々と出会い、交流を深めていく過程に感じたものでした。この背景には、事務局の準備と調整、活動スタッフの協力、そして現地の皆さんの受入姿勢、これらすべてが必要であったのだと思います。しばらく活動に参加しておりませんが、SNSを通じて繋がりをもちました。また、「大船渡」という地名を見聞きすると思わず反応します。

私にとってまっさきは、「縁」のある場所です。

地方創生、国際化、多様化等、難しく考えるのではなく、出会い、交流を深めることで様々な縁を作っていくこと、それがこの活動を通じて感じ、これから活かしたいと考えることです。

#### ➤ 市川 有宏

地域の方と直接触れ合える活動はなかなか少なく、この活動は貴重な存在でした。また、自分の持つPCスキルを活かせる場という点もありがたかったです。自分のできることが人の役に立つことはこの上のない幸せなことです。参加者の方も回を追うごとにスキルを上げているのも嬉しく感じた一つです。SNSをまったくやっていなかった方が動画を投稿するまでにスキルアップしたときは嬉しさとともに驚きを感じました。

半面PCよろず相談という枠を外れてお話を伺う場になるケースもありました。目的からは外れてしまっていますが、地域の方のお話を伺うことはたいへん勉強になることであり、地域の方にとっては癒しの時間だったと思います。今後は地域からのラブコールをいただき、また現地に足を運びたいと思います。

せっかく個人でも繋がった活動ですので、今後はPCから離れて個人的な交流として訪れたいと思います。

ぜひ、まっさき地域の方から要望をいただき、地域の行事などと絡めて行く機会を作っていただければ幸いです。地域への働きかけなどは援護射撃的に行えればと思います。

#### ➤ 葛西 章広

2016年度の活動をもってデジタル公民館まっさき活動の主体が東京霞が関の民設民営公民館のKK<sup>2</sup>から本来の末崎地区に移ることとなり、誠に嬉しくお祝い申し上げます。

個人的には2013年5月活動から参加してまいり

ましたが、この間、実に多くの出来事があり、実に多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

今後は、皆さまに教わりましたことを自分の住まいがある千葉県で既に実行している取組みを継続して参りたいと思います。

- 一 竹とんぼ教室（どこ竹@ちば）
- 二 Facebook等のITよろず相談
- 三 避難所運営訓練、ボラセン立上げ訓練

Facebook、その他のSNSやメールでお伝えすることができる「行動」をしてまいります。今後もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

#### ➤ 田中 純一

本活動には、KK<sup>2</sup>の別プログラムへの参加が契機となって、途中から参加した。転勤で地方勤務したことがあり、東京も「地方」の一つ、という認識は少なからずあったが、本活動に参加したことで、津々浦々に津々浦々の生活があることを強く再認識するに至った。何ができたのかは今も良く分かっていないが、現地に知己が得られたことをはじめ、得られたこと、認識を新たにできたことは下記のとおり多くある。人生観に影響があるくらい貴重な経験となった。

- ・どのような形であっても人が逞しく生きている
- ・同じ集落でも被災の程度に大差がある
- ・支援活動に名を借りた営業行為もあり、歓迎一色ではない
- ・築堤、高台移転、道路復旧などの土木工事で景色の変化が激しい
- ・仮設住宅からの移転が本格化している
- ・同じ集落の住民間のコミュニケーションが必ずしもいいとは言えない
- ・当地が日本のわかめ養殖をリードしてきた
- ・「東北の湘南」「海のある軽井沢」といわれる気候である

- ・ 虎舞などの民族芸能が残る一方、囲碁を巡る新しい動きもある
- ・ 公民館という組織、機能の不思議と運営の難しさ
- ・ 居場所ハウスという存在と最近の住民活動に新しい動きがある
- ・ ボランティア精神に富む多様な人との繋がりができた。

今後の支援活動の在り方についてはまっさき活動に限らず議論があるところだが、個人的には、息の長い活動を緩やかな組織で継続すべきだと思っている。使命感はあえて奥にしまって、多少はお役に立つ活動で、かつ参加者が楽しめるコンテンツを模索したいところである。また、懸念されるのは、活動の主体、参加者による費用負担原則、公民館制度との両立、新たな住民活動との関係などではないかと考えている。

#### ➤ 堀池 喜一郎

「竹とんぼ先生と子ども、人間そして社会」  
工業デザイナーの故秋岡芳夫はその著「竹とんぼからの発想」で書いている。

「ぼくは、手の働きを見直した。ぼくの右手はパワーで、左手はセンサー。その右と左とが見事に連動する。手が考えて作る」

この考えが元で、竹とんぼ先生の会「どこ竹」ができた。

人間は身体的に反応する動物。都会の生活ができてから論理で何事も解決するかようになって、学校も、論理のやり方だけを教える。だがそれは違う。

竹とんぼ教室で、子どもたちは何に感動しているか。3つがあるようだ。

一つ。竹を熱して指で曲げる。あっちい。先生は「死にやあせん」と言う。

二つ。曲げてみて「角度はこれでいいですか」聞くと、先生は「やってだめならまた作れば良い」と教えてくれない。

三つ。変なおジサン先生がいる。ああ、こういう大人が居るんだと知る。

これって、なぜか大事なことに思う。お母さんたちが見学して、このやり方に多くの人が賛成する。「どこでも竹とんぼ教室を！」捨てたものではない。

#### ➤ 丸山 修

2011年～2017年まで三陸・気仙地方には60回程度、年平均10回程度訪問してきました。ITもガテンも苦手で、自分が被災地に役に立つかどうか？でしたが、とにかく自分の目で被災地を見て、被災地の人々にふれ、現場で感じないことには何もはじまらない、という気持ちでITボランティアの夜行バスツアーに参加しました。

2012年9月からの「デジタル公民館まっさき」活動では、プログラムやスケジュールの企画調整担当として、ふるセンやまっさきのみなさんには本当にお世話になりました。ほとんどまっさき住民のつもりで、まちを歩き来し、電話し、FBし、公民館、居場所ハウス、岬、シタボ、羅萌衣瑠、細浦漁港作業場、仮設住宅集会所や、何人かのご自宅をたびたび「今日は・・・」と訪問させていただきました。

この6年間の気仙・まっさき体験により自分の人生は確実に変わったと思っています。自分が住んでいる地域とは、ほとんど関わらない“会社人間”から、地域にも関わる人間に少しずつ進化したのではないのでしょうか。まっさきのみなさん、活動スタッフのみなさん、楽しい日々ありがとうございました。また、あいましょう。

## 資料2 2016「デジタル公民館まっさき」収支報告

	項目	詳細	予算額(円)	実績(円)	備考
収 入	事業費	(一財)高度映像情報センター公益事業負担金	1,200,000	1,200,000	
	寄付金	27年度寄付金繰り延べ金	300,081	300,088	
		28年度チャリティ寄席寄付	150,000	129,500	
		個人寄付金		30,000	
		三菱東京UFJ銀行預金利息		9	
	収入合計		1,650,081	1,659,607	
支 出	ICT環境維持費	末崎地区公民館 NTT光回線契約料 5616円×12ヵ月	67,392	67,392	
		ドメイン、レンタルサーバ、ルーター、無線LANAP、有害サイトフィルタリング 13,645円×12ヵ月	163,740	163,736	
		固定ISP使用料、ISP使用料 1,944円×12ヵ月	23,328	23,328	
		小中井仮談話室 NTT光回線契約料 5,616円×2ヵ月	11,232	15,348	2ヵ月→3ヵ月(日割り)
		ルーター、無線LANAP、有害サイトフィルタリング 10,278円×2ヵ月	20,556	30,834	2ヵ月→3ヵ月
		固定ISP使用料、ISP使用料 1,944円×2ヵ月	3,888	5,832	2ヵ月→3ヵ月
		小計	290,136	306,470	
	交通費	学生スタッフ・東京地区 (20,690円×1名分)×4回	82,760	82,760	
		学生スタッフ・仙台・盛岡地区 (8,040円×2名分)×4回	64,320	0	
		事務局 (20,690円×1名分)×4回	82,760	196,080	
		小計	229,840	278,840	
	宿泊費	スタッフ (6,500円×8名分)×4回	208,000	222,100	
		事務局 (6,500円×1名分)×4回	26,000	59,700	
		小計	208,000	281,800	
	現地移動費	レンタカー 10人乗り 38,500円×4回	154,000	188,930	
		ガソリン代 3,000円×4回	12,000	5,911	
		小計	166,000	194,841	
	プログラム費	映画レンタル料 60,000円×2作品	120,000	10,000	7/30視察研修受入れ 講師謝金
		小計	120,000	10,000	
	活動中食費等	弁当代 1,000円×2回×10人×4回	80,000	62,000	
		飲み物代 2,500円×4回	10,000	10,636	
		小計	90,000	72,636	
	通信・運搬費	切手代 82円×40通	3,280	164	
		切手代 250円×40通	10,000	3,490	活動チラシ直送代
		宅急便代 1,500円×40個	60,000	23,868	
		小計	73,280	27,522	
	印刷費・消耗品・雑費	事務用品 3,500円×4回	14,000	22,678	ミニ門松づくり材料費含む
	媒体等 1,500円×4回	6,000	7,138		
	振込手数料 (750円×4回)×2名	6,000	2,916		
	PCネットよろず相談消耗品 3,000円×4回	12,000	18,978		
	印刷費(現地チラシ) 1,500枚×20円×4回	120,000	35,424	末崎町1500戸配布分	
	中森能野野仲社式年大祭 お祭りお祝金として		30,000		
	学生ボランティア保険料・行事保険		2,680		
	小計	158,000	119,814		
予備費	Webサイトコンテンツ・映像コンテンツ取材・制作等	314,825	314,825		
	27年度活動費否認分不足金額(文科省返納)		5,190	5,535円-口座残高345円=不足分	
	H28年度活動反省会補助金		45,000		
	次年度繰越金		2,669		
	小計	314,825	367,684		
	支出合計		1,650,081	1,659,607	



**関連サイト情報**

「デジタル公民館まっさき」公式サイト

<http://www.massaki.jp/>

霞が関ナレッジスクエア 人と人の絆と地域の再生「デジタル公民館まっさき」

<http://www.kk2.ne.jp/kk2/biz01/p1-14.html/>

「デジタル公民館まっさき」フェイスブック

<https://www.facebook.com/digitalmassaki/>

**2016 年度「デジタル公民館まっさき」活動報告書**

**発行日：2017 年 3 月 29 日**

**発行者：デジタル公民館まっさき運営協議会**

**霞が関ナレッジスクエア（KK<sup>2</sup>）**

**〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-1 霞が関コモンゲート西館 3 階**

**電話 03-3288-1921 FAX 03-5157-9225 <http://www.kk2.ne.jp/>**